

令和7年度 研究紀要

研究主題

「深い学び」の実現に向けた  
指導法の工夫



大阪市立春日出小学校

## 目 次

I	研究の趣旨・・・・・・・・・・	1
	1. 研究主題	
	2. 主題設定の理由	
II	研究の視点・・・・・・・・・・	2
III	研究の組織と進め方・・・・・・・・	4
IV	実践事例	
	1. 低学年の取り組み・・・・	8
	2. 第1学年の実践・・・・	10
	3. 第2学年の実践・・・・	17
	4. 中学年の取り組み・・・・	22
	5. 第3学年の実践・・・・	24
	6. 第4学年の実践・・・・	32
	7. 高学年の取り組み・・・・	40
	8. 第5学年の実践・・・・	42
	9. 第6学年の実践・・・・	49
V	メンター研修・・・・・・・・・・	55
VI	研究のまとめ・・・・・・・・・・	57
	1. 研究の成果	
	2. 今後の課題と取り組み	

# I. 研究の趣旨

## 1. 研究主題

### 「深い学び」の実現に向けた指導法の工夫

## 2. 主題設定の理由

本校では、これまでの4年間、研究教科を国語科に設定し、3年間「相手に伝わるように、自分の思いを話す子どもを育てる」を研究主題とし、主体的で対話的な学びの実現に向けた指導法の工夫を研究してきた。これまでの成果として、話し合い活動が活発に行われるようなツールの使用や授業展開を実践し、児童は自分の考えや思いを友だちに伝えられるようになってきた。また、友だちの考えや思いに耳を傾け、聞いて反応したり共感したりすることができるようになってきた。

さて、今年度の研究を設定するにあたって、「主体的・対話的で深い学び」の深い学びに着目した。昨年度、研究討議を進める中で、「国語科における深い学びとは何か。」という課題が出てきた。研究していく中で、主体的・対話的な学びを深い学びにつなげるための指導法の工夫についての研究の必要があると考えた。

そこで今年度は、どのような授業展開にすれば、児童が考えを深めることができるのかを追求していくことになった。児童が自分の考えを深められるような取り組みを、低・中・高学年に分かれて考えていくようにする。それを国語科の授業において1年間を通して実践していくようにする。

## Ⅱ. 研究の視点

### Ⅰ. 国語に関する基礎(知識・情報・語彙)の蓄積

#### ○ 読書習慣を身につける工夫

- ・朝の読書タイム(毎週月曜日)
- ・学級図書 of 充実(図書の貸し出し・図書館の貸し出しを学級で利用する。)
- ・関連図書の充実(並行読書)
- ・本の紹介コーナーの設置

#### ○ 視写の取り組み

- ・児童の関心が広がる教材の選定(新聞の切り抜きなど)  
→ 主体的に言葉や文章の表現の技法を身につける。

#### ○ 付けたい力を意識した音読指導

- ・大切にしたい観点の共通理解  
→ 音読カードの見直し  
→ 児童が音読のポイントを把握しての音読  
→ 各学年の音読に関する指導事項の確認
- ・ICT(学習者用端末)を使った自己評価  
→ 他者からの評価だけでなく、自分の音読を自分で振り返る機会を作ることによって音読のポイントをより意識させる。

#### ○ 朝の15分学習

- ・朝学習の内容を全学年統一する。

月	火	水	木	金
読書タイム	国語タイム(基礎)	集会タイム	算数タイム	国語タイム(書く)
4週目は本の紹介カードを書く。	・漢字 ・語彙 ・暗唱活動 ・視写 ・文章読解 など	1・3週目 全校朝会 2・4週目 たてわり集会	基礎基本 応用	・「書く」学習 ・子ども新聞の活用(高学年)

※ 「書く」学習・・・視写、なぞり書き、発想メモ、連想ことば、吹き出し作文、なりきり作文、空想作文など。

※ 文章読解のドリルの活用・・・文章を読み、問題に答えることを低学年の段階から積み重ねる。

#### ○ 言語環境づくりに取り組む

- ・教師自身の言語環境づくり  
→ 適切な(正しく・丁寧に・温かい)言葉づかい

- 正確に・丁寧に・工夫して板書する
- ・児童の言語環境づくり
  - 言語活動を反映した作品掲示
  - 暗唱活動
  - 聞く力・話す力の涵養
    - (聞き方話し方名人の掲示・話型の掲示・ハンドサインの活用など)
- ・校内の言語環境づくり
  - 掲示物の整備
    - (委員会のポスターなど 正しい言葉づかい 分かりやすい内容)
  - 適切な校内放送
    - (聞く相手の立場を意識する 話す内容や言葉づかいに注意して放送する)

## 2. 「深い学び」につながる指導法の工夫

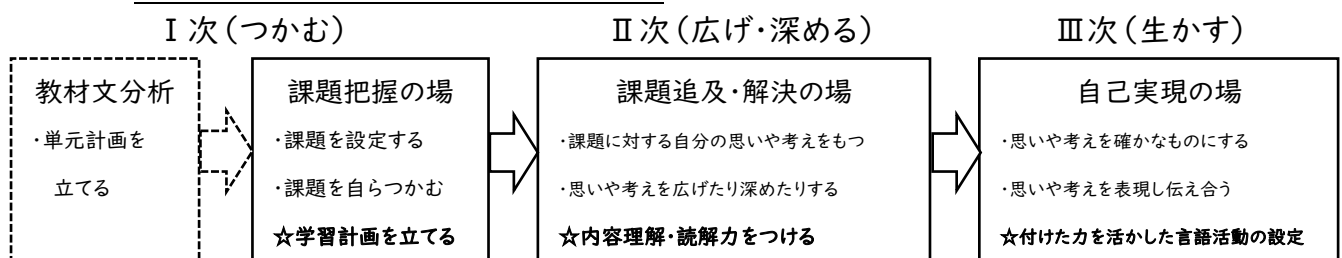
### ○教材分析を行う

- 文章の中で、気づかせたい語句や表現(知識・技能)は何なのか、育みたい読みの力(思考力・判断力・表現力)は何なのかをあらかじめ分析する。
- 単元で扱う指導事項(「言葉の力」「ことばの力」と関連付けて、教材がもっている特徴を明らかにする。
- 学習者の視点を大事にした教材研究

### ○身につけた力を活用・発展させる場面設定

- ゴールを明確にし、それを達成するための学習の流れの工夫

### ○単元の流れと学習過程(4段階)の定着



### ○深い学びにつながる取り組みの実践

- 低・中・高学年部会で、国語科における「深い学び」について考える。
- 深い学びにつながる取り組みを考え、1年間を通して実践する。
- メンター研修の充実

## V. 研究の組織と進め方

### (1) 研究の組織

【研究推進委員会】		
校長・教頭・教務・研究推進部		
【研究推進部】		
主任(石原)・校内研修(神谷・高山)・メンター研修(小島)		
<u>低学年部</u> 小島★ 大本・林・丸山・山下・綱永	<u>中学年部</u> 石原★ 細川・中原・坂上・阿部 宮崎・吉田・田中	<u>高学年部</u> 神谷★ 高山・七野・長谷・吉本・文

#### ★学力向上委員会

- 研究計画を企画・立案し、推進を図る。
- 研究全体会の企画・運営を行う。
- 研究発表・研究紀要の企画・編集を行う。

#### ★研究全体会

- 研究主題・研究推進について共通理解を図る。
- 授業研究会・研究討議会を通して、研究主題を究明する。

#### ★低学年部会 中学年部会 高学年部会

- 年間学習計画の作成・検討をする。
- 大授業の指導案の作成、学習指導材についての内容を検討し作成する。
- 低・中・高学年に分かれて、児童の学びを深めるために、1年を通してできる取り組みについて考え、実践する。
- 授業研究・研究会等の記録保管、写真・VTRなどの撮影、整理を行う。

### (2) 全体授業研究会

- 大授業・・・低・中・高学年部会から1本行う。(計3本)
- 小授業・・・大授業を行わない学年が1本行う。(計3本)
- 公開授業・・・それ以外の教員が行う。

### (3) 研究の進め方

月	内容
4	・研究主題の決定 ・授業者と授業単元を決定 ・研究全体会
5	・主題を元に、低・中・高学年で、研究の内容を決定 ・研究内容の確認 (具体的な中身を低・中・高学年部会で確認し共有する。)
6	・研究大授業(4年1組)「広告を読みくらべよう」
7	・中間報告会 (研究の課題と成果を低・中・高学年に分かれて共有し、話し合う。)
8	
9	・研究大授業(1年1組)「かいがら」 ・研究小授業(6年2組)「『永遠のごみ』プラスチック」
10	・研究小授業(2年1組)「絵を見てお話を書こう」
11	・研究小授業(3年2組)「モチモチの木」
12	・研究大授業(5年1組)「大造じいさんとがん」 ・研究のまとめ ・最終研究報告会 (低・中・高学年部会に分かれて、研究のまとめの作成。) ・研究発表資料完成 ・研究発表リハーサル
1	・研究発表
2	
3	・次年度の研究について

### ○研究授業の持ち方○

#### 【研究授業(大授業)】

- ・ 低・中・高学年で1本授業を行う。(年間3回)
- ・ 研究教科は国語科で、研究領域は決めない。
- ・ 低・中・高学年部会に分かれて、教材分析・指導計画・指導案作成・検討を行う。
- ・ 教材分析に関しては、各自で2か月前を目安に始める。
- ・ 指導案が1週間前に完成するように検討会の日程調整を各部会リーダー中心に行う。  
(例 1言語活動 2流れ 3本時 4指導案検討 計4回)
- ・ 討議会の準備は、各学年部会で行う。
- ・ 討議を活発に行うために、グループで、「研究主題・視点」をもとに発言、討議を進める。
- ・ 討議会の全体の流れは、「各学年の取り組みと授業者のふりかえり⇒グループ協議⇒全体協議⇒講師先生のご助言・ご指導⇒学校長の挨拶」とする。

### 【研究授業（小授業）】

- ・ 授業者が10年未満の場合は、メンター研修のグループで授業の提案を考えて、学年に相談しながら指導案を作成する。
- ・ 指導案検討・研究討議会は開催しない。（コメントカードを持ち寄りメンター研修）

### 【大授業・小授業 共通事項】

- ・ 指導案は完成版を作成する。（雛型参照）
- ・ 完成した指導案は、1週間前までに研究推進のフォルダに入れる。
- ・ 授業該当者は、当日の座席表を用意し、教室後方等、わかりやすい位置に置いておく。
- ・ 写真等の記録は、授業者が所属する学年部会が行う。ビデオ記録は、視聴覚部が行う。
- ・ 参加者は研究の視点を中心に授業を参観する。
- ・ 国語科の教科書・指導書・指導案は研究推進のフォルダから、必要な時に各自印刷する。

### 【公開授業】

- ・ 大授業・小授業を行わない教員については、各学年、なかよし内でプレ授業や公開授業、相互授業参観を行う。
- ・ 授業者が10年未満の場合は、メンター研修のグループで授業の提案を考えて、学年に相談しながら指導案を作成する。
- ・ ミニ研究協議会をメンター研修で実施する。
- ・ 指導案は略案とする。
- ・ 完成した略案は、3日前までに研究推進のフォルダに入れる。

### 【メンター研修】 ※令和7年度メンター研修計画を参照。

- ・ 経験年数10年未満の教員については、メンターリーダーを中心に自主的自発的研修、相互授業参観、ミニ研究協議会等を計画的に実施し、若手教員の指導力の向上を図る。

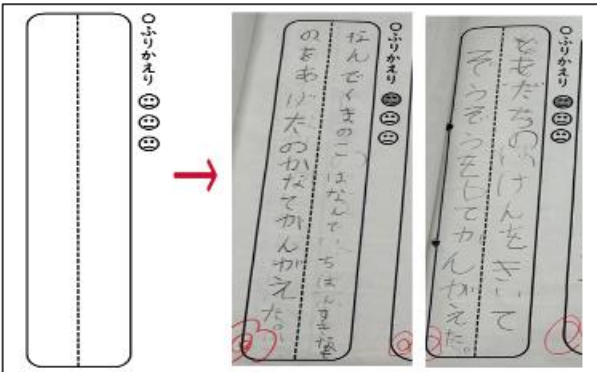
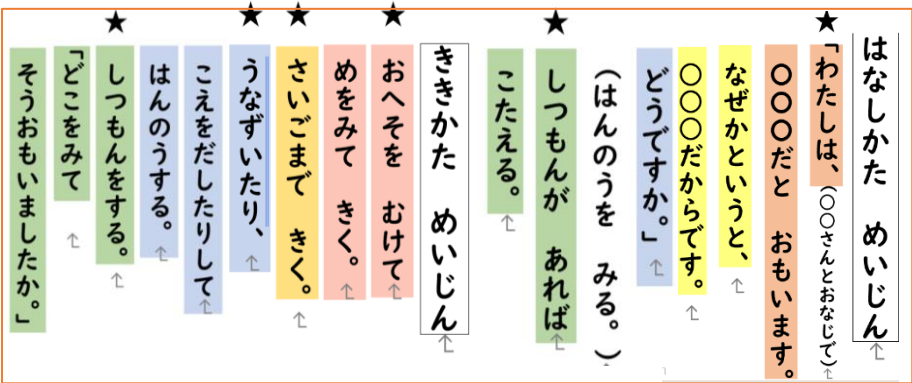


# VI.実践事例

## 各学年の実践

# 低学年の取り組み

## ○取り組み内容

<p>主体的な学び</p>	<p><b>視点1</b> 学びと生活が結びつく実感が持てるようにはたらきかける</p> <p>① 振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の読み書きの経験が少ない低学年の児童においても、学習内容や理解の深まりを言語化できるよう、振り返りの工夫として表情イラストを活用した。表情を選択した上で、その理由として「分かったこと」や「できるようになったこと」を記述するよう促すことで、振り返りの時間の充実を図る。</li> </ul> 
<p>対話的な学び</p>	<p><b>視点2</b> 自分の考えを表現し、言葉にして伝え合う場の設定</p> <p>① ハンドサインを用いた交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「同じ」「付け足し」「意見」を表すハンドサインを用いて、児童同士が考えや意見を共有できる学習場面を設定する。ハンドサインを活用し、友だちの意見や考えを注意深く聞く姿勢を育てるとともに、共感を示したり、疑問をもって質問したりするなど、相互に関わりながら学ぶ態度の形成を図る。</li> </ul> <p>② 自分の考えを表現する力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な「話す」「聞く」の力の基盤づくりを目的とし、一年生はペア学習、二年生は四人グループによる交流形態を継続的に行う。少人数での交流を通して、話し方や聞き方を身に付けさせるとともに、思いや考えをやり取りする経験を積み重ねることで、最後まで相手の話を聞こうとする態度や力の育成を図る。</li> </ul> 

○成果と課題(◎成果と●課題)

- ◎ 振り返りの活動を継続的に行うことで、児童が自らの学びを自覚しながら学習に取り組む姿が見られるようになった。  
表情のイラストを用いた振り返りシートの活用により、記述に苦手意識のある児童も取り組みやすくなり、「分かったこと」「できるようになったこと」を自分の言葉で表現しようとする姿が育ってきている。
- ◎ 振り返りを積み重ねることで、学習内容を自分事として捉え、次の学習へとつなげようとする深い学びの基盤が形成されてきた。
- ◎ 学習過程にハンドサインを取り入れたことで、児童同士が互いの考えを交流する場面が増加した。自分の考えを表すことや相手の考えを聞くことを通して、話す力・聞く力が自然と育っている。
- ◎ ペア、グループ学習を通して、友だちの意見を聞き、自分はどうかと反応する力が育ち、話す力・聞く力の向上が見られた。
- 振り返りの記述内容には個人差があり、記述に時間を要する児童がいる。また、感想や感情面にとどまった振り返りが見られ、学習内容を基にした振り返りや、生活・次の学習へとつなげる視点については十分な定着に至っていない。
- 対話的活動は活発化しているものの、「なぜそう考えたのか」「どこを根拠としたのか」といった理由や根拠を明確にしながらかし思考を深める対話には課題が残る。今後は、発問の工夫や掲示物の活用など、児童の思考を促す指導の在り方をさらに検討していく必要がある。

## 第1学年 国語科学習指導案

指導者 小島 沙采

1. 日 時 令和7年9月30日(火) 第5時限目(13:40~14:25)
2. 学年・組 第1学年1組 在籍22名
3. 場 所 1年1組教室
4. 単 元 名 「かいがら」(東京書籍)
5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

この付けたい力をはぐくむために、「人物になりきって手紙を書いてみよう」という言語活動を設定する。本題材は、くまの子の葛藤やうさぎの表情の変化などが豊かに表されており、会話文や挿絵に着目し、具体的に想像していくことによって登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。「人物になりきる」という活動を取り入れることによって、本学級の児童たちが、くまの子の気持ちに寄り添いながらお話を読んだり、共感したりしながら、じっくりと想像力を働かせることができると考えた。さらに、「なりきって手紙をかく」という活動を取り入れることで、人物の気持ちに寄り添うきっかけを作りたいと考える。物語の展開や様子を、想像しながら読むことで、これまで、物語文に触れた経験が少ない児童たちにとって、主体的に物語文を楽しみ、味わうことができると考えた。以上の活動が、今後の読書や物語を読む学習を意欲的に進める原動力になると考えられ、お話を読む面白さにつながると考える。

### 6. 単元目標

- ◎場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉えることができる。
- ◎登場人物になったつもりで、場面の様子や登場人物の行動を具体的に表現することができる。

### 7. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

- ・ 7月に学習した「おおきなかぶ」では、登場人物の行動を読み取り、展開を楽しむ経験をしている。読み取った内容をペアで交流したり、音読発表会を通して感想を述べ合ったりと、対話的な活動を経験してきたが、学習時の様子から、最後まで相手の話を聞くのが難しい児童が多いことがわかる。
- ・ 登場人物の気持ちを直接的に読み取ることがむずかしい児童もいたため、挿絵をもとに登場人物に吹き出しを加えるなどの学習活動を取り入れた。そうすることで、登場人物の気持ちを考えることができる児童が増えた。
- ・ 児童アンケートの「読書が好き」の項目で肯定的回答が95%であったことや、「おおきなかぶ」の学習で、前向きに学習に取り組む姿が見られたことから、本を読むことが好きな児童が多いことがわかる。しかし、読んだ後の感想では、「おもしろかった。」「すごいなとおもった。」などが多く、なぜそう思ったのか表すことは難しい児童が多い。

- ・ ひらがなをすべて読む(書く)ことが難しい児童には、先に気持ちを言葉にさせて、それを指導者と一緒に文章にしてノートに書くようにしている。
- ・ 書く経験を積むために、「絵日記」や「ひとこと作文」にも取り組んでいるが、誤字・脱字も多く、まだ一人で正しい文章を書くのには時間がかかる。しかし、自分の思いを文章にして伝えたいという意欲的な姿も多くみられ、訂正が必要な部分はあるが、数行に渡って自分の気持ちや考えを書けることができる児童も多い。
- ・ 話し合い活動では、ハンドサインを活用している。「違う(同じ)考えだ」と表現することができるが、疑問に思うことがあっても、質問ができるまでには至っていない。しかし、ハンドサインを活用することで、友だちの考えを聞こうとする態度は育ってきた。
- ・ 話し合い活動では、話型を提示している。そうすることで、自分の考えを友だちに伝えることができる児童も増えてきた。しかし、まだ、自分の気持ちを伝えることが難しい児童もいる。

## (2) 教材観

- ・ 「おおきなかぶ」では、登場人物の行動を読み取り、展開を楽しむ力を高めた。本教材は、会話文や挿絵を手がかりに登場人物の気持ちを読み取ることができる教材であるため、人物になりきって手紙を書く言語活動を設定することで、物語を読むことの楽しさを味わえると考え。
- ・ 本教材は、くまの子が、いちばんのお気に入りだった貝殻を、一晩悩んだ末にうさぎの子にプレゼントするお話である。くまの子の行動が中心に書かれているため、話の展開を捉えやすいと考える。
- ・ くまの子がうさぎの子に貝殻を見せた日と、その翌日の二場面に分けられ、場面ごとの気持ちの変化を考えやすいので、行動や会話を読み取りやすく、登場人物の様子を想像するのに適した教材であると考え。
- ・ くまの子とうさぎの子の会話は、児童の共感を呼びやすいと考えられ、友だちとの関係が深まり始めるこの時期に、相手の立場に立って考える思いやりの大切さや、友だちを思う優しさに共感しながら読むことができると考えられる。
- ・ 本教材には、登場人物の掛け合いの会話部分があり、短いながらも気持ちがわかりやすく豊かに表現されていて、登場人物に共感しながら読むことができる。「うん。そうだよ。だから、あげるんだ。」の「だから」に込められた理由や、「ありがとう。ほんとうにありがとう。」といったくり返しの言葉のように、うさぎの子やくまの子の気持ちを考える表現の技法が用いられており、児童が場面や様子を考える際に活用しやすい。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 児童が学習の見通しをもてるように、「人物になりきって、手紙をかいてみよう」という学習のゴールを示し、児童の学習に対しての興味関心を高める。
- ・ 範読を聞かせた後に、挿絵の並べ替えを行うことで、物語の内容を捉えにくい児童でも、主体的に物語の大体の内容や流れを捉えられるようにする。
- ・ 学習のはじめと終わりに物語についての感想を書かせることで、学習前と学習後の物語に対する感じ方の変化を自覚できるようにする。そうすることで、読書に対する興味関心を高めたい。

### (第Ⅱ次)

- ・ くまの子とうさぎの子の気持ちを考える際には、「おおきなかぶ」で学習した音読発表会を想起させ、ペアで役割を決め、会話文を登場人物になりきって音読することによって、その時の登場人物の気持ちを考

えやすくする。

- ・ ワークシートには、気持ちを考える人物の挿絵を入れることで、登場人物の気持ちを想像させる手がかりとする。
- ・ 本時では、「ありがとう。ほんとうにありがとう。」の「ほんとうにありがとう。」という言葉に着目させる。そこに感謝以外の気持ちも込められていることに気づくことができるよう、うさぎの子が驚いていることがわかる挿絵を挿入し、考える手立てとさせる。
- ・ 第Ⅱ次では、一人で登場人物の気持ちを考える→ペアで話し合う→全体で考えを共有する。の学習の流れで毎時間行う。ペアで話し合い、自分の考えを受け入れてもらうことで、全体交流の際に、自信をもって自分の考えを発表できるようにする。
- ・ ペアで話し合いを行う際には、「相手の顔をみて話をきくこと」「聞いた後はうなずきや、言葉を受けとめて返すこと」を伝え、自信をもって話をしたり、友だちの考えをしっかりと聞いたりできるようにする。

(第Ⅲ次)

- ・ 手紙を書く際には、児童がくまの子か、うさぎの子を選択できるようにすることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 第Ⅱ次で学習したことを想起させ、「それぞれの登場人物がどのような気持ちになったのか」や「物語のなかでどのような出来事が起きたのか」を確認することで、手紙を書く活動につなげる。
- ・ 第6時では、学習後の感想を書かせることで、学習前と学習後の自分の物語に対する感じ方の変化に気付かせる。

(単元を通して)

- ・ 振り返りを行う際には、表情のマークに印をつけさせるようにすることで、学習のめあてを達成することができたのかどうかをふりかえることができるようにする。
- ・ 毎時間振り返りを設定することで、自分でめあてを達成できたか評価できるようにする。表情のマークに印をつけてから理由を書くようにすることで、次の学習への意欲つなげて、主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・ 挿絵やセリフに注目しながら学習に取り組むことができるように、挿絵や吹き出しが入ったワークシートを活用する。
- ・ 話し合い活動を行う際には、自分の考えをうまく言葉で表すことができない児童でも、話し合いに参加できるようにハンドサインを活用する。児童の考えを広げたいときには、友だちのハンドサインを見て、当て合いをさせることで、たくさんの考えが出るようにする。

## 8. 単元指導計画(全6時間 本時 第4時)

- ①場面の確認、初発の感想を交流する。
- ②第一場面のくまの子の行動や会話から話の展開を読み取る。
- ③②で読み取った内容から、くまの子の気持ちを考える。
- ④第二場面のくまの子とうさぎの子の行動や会話から、話の展開を読み取る。(本時)
- ⑤くまの子やうさぎの子になりきって、手紙を書く。
- ⑥⑤で書いた手紙を読み合い、物語をふりかえる。

## 9. 本時の学習(4/6)

### (1) 本時の目標


○第二場面のうさぎの子とくまの子の気持ちを考えることができる。

### (2) 展 開


学習活動	指導上の留意点
1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてをたしかめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習を確認し、くまの子が悩んで葛藤していたことを想起させる。</li> <li>・ 第二場面を範読し、本時の学習範囲とめあてをつかませる。</li> </ul>
めあて つぎのひの、うさぎのこと くまのこの きもちをかんがえよう。	
2. 第二場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ くまの子とうさぎの子の会話をなりきって読むように指導する。</li> <li>・ なりきるための、読み方の工夫を確認し、音読させる。</li> </ul>
3. うさぎの子の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ありがとう」を繰り返している点に着目するよう伝える。</li> <li>・ うさぎの子の言葉や挿絵の表情を手がかりにさせ、うさぎの子が驚き、感謝していることに気付かせる。</li> <li>・ うさぎの子の気持ちを想像することが難しい児童には、自分が大好きなものをもらった経験を思い出すよう声かけをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ うさぎの子の気持ちをかんがえることができる。 【思考力・判断力・表現力】(発言)(ワークシート)</p> </div>
4. ペアや全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを友だちに伝えることが難しい児童も、考えを伝えやすくするために話型を提示する。</li> <li>・ 話型には、「なぜそうおもいましたか。」という質問を入れて、自分の考えを伝え合うだけでなく、交流後の考えが広がるように工夫する。</li> <li>・ 自分の考えをうまく言葉で表すことができない児童でも、話し合いに参加できるようにハンドサインを活用する。児童の考えを広げたいときには、友だちのハンドサインを見て、当て合いをさせることで、たくさんの考えが出るようにする。</li> </ul>

<p>5. くまの子の気持ちを考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★ うさぎの子の気持ちについて考えを述べたり、きいたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】(発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵に注目させ、くまの子になったつもりで考えるよう伝える。</li> <li>・ 考えることが難しい様子であれば、どうしてくまの子はうさぎの子に一番好きな貝殻をあげたのかを考えるよう発問する。</li> <li>・ 自分の考えをペアで話し合うように伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★ くまの子の気持ちを考えることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(発言)(ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「なにができるようになったか」「どのようなところをよく考えたか」など、振り返りの観点を明確にし、めあてをもとに、児童が自らの学びを自覚できるようにする。</li> <li>・ 表情のマークに印をつけ、なぜそのマークにしたのか、理由を書くように振り返りを書くよう伝える。</li> </ul>
<p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	

10. 板書計画



くまのこのきもち



「ありがとう。ほんとうにありがとう。」といったうさぎのこのきもち

よみかたのくふう

かいがら  
めつぎのひのうさぎのこと  
くまのこのきもちをかんがえよう。

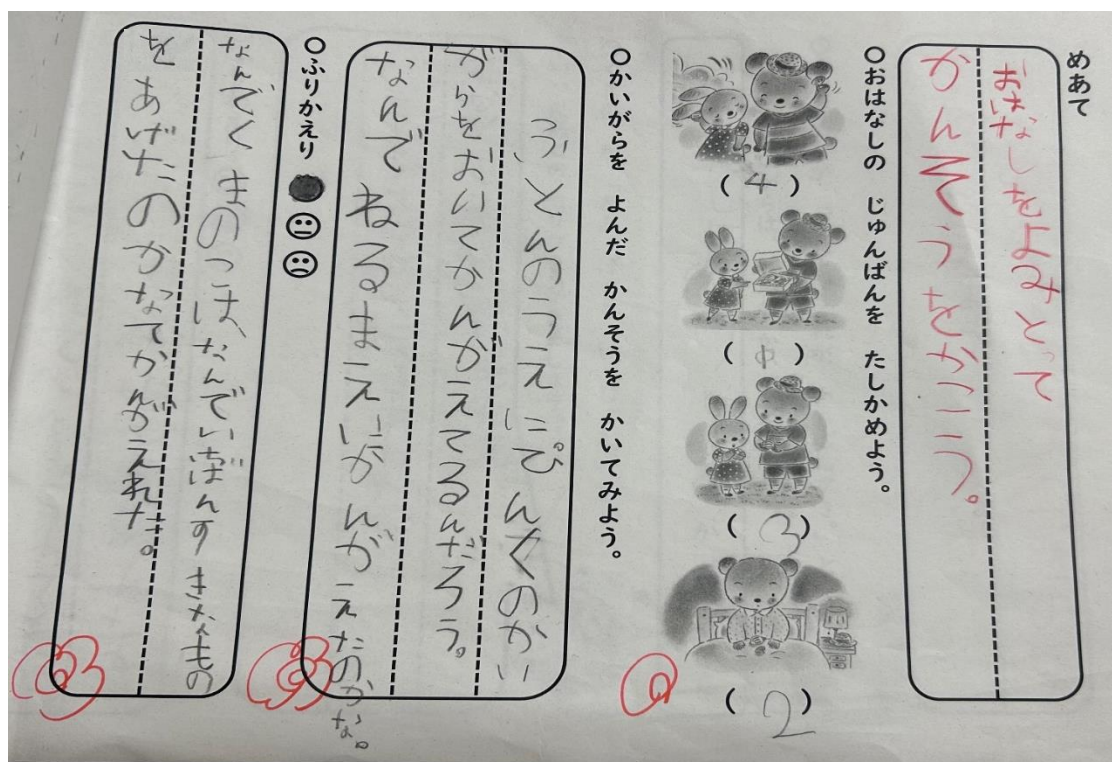


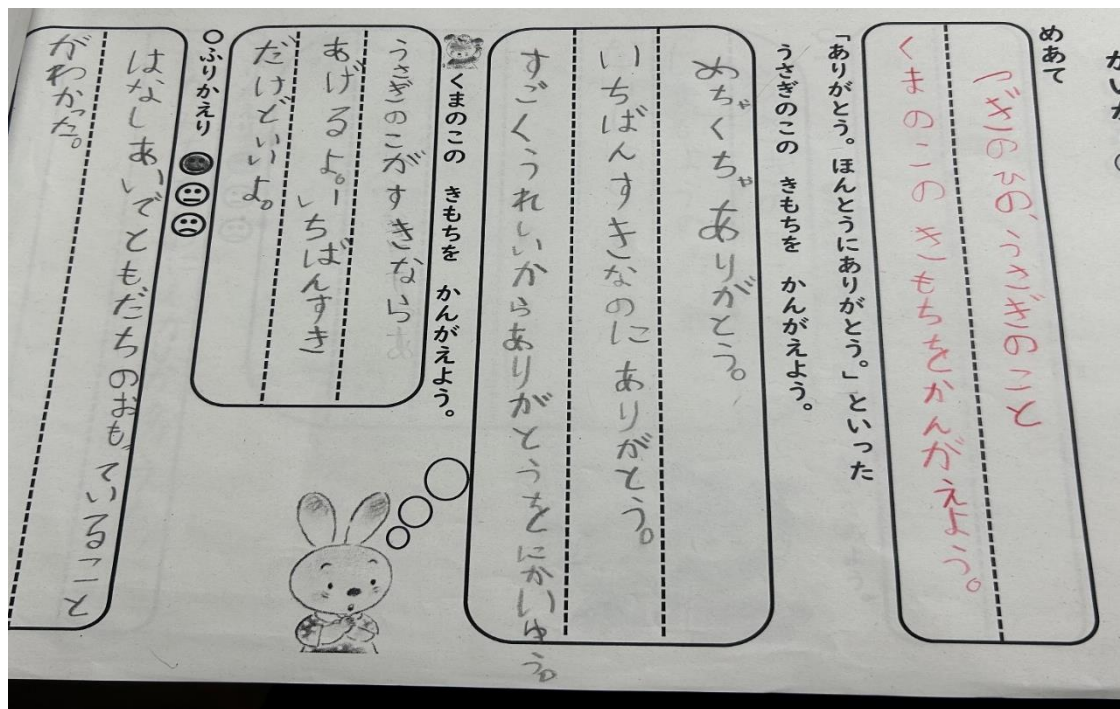
## 11. 成果◎と課題●

- ◎ 文中の「ありがとう。ほんとうにありがとう。」という表現について、「なぜ二回繰り返しているのか」と本文の表現意図を問い直すことで、登場人物の心情に寄り添いながら思考する児童の姿が見られ、考えを深める学習につながった。
- ◎ ハンドサインの活用については、定着までに一定の時間を要したものの、4 月から継続して取り組むことで多くの児童に定着し、児童同士の意見交流が活発になりつつある。また、本時では登場人物の気持ちを捉える際に視覚的に意見や考えを児童同士が把握することができた。
- なりきり音読については、学習者が活動の目的を十分に理解した上で取り組むことが難しく、意図をもちたずに活動してしまう様子が見られたため、活動の意義を明確にするとともに、お面等を用いた工夫が必要である。
- 登場人物の気持ちを問う学習に偏った結果、深い学びに十分につながらず、「なぜこのような表現が用いられているのか」といった表現に着目した学習展開が求められる。
- 振り返りにおいて、学習のめあてに対し、「何がどのように分かったのか」「どの表現から何ができるようになったのか」まで記述できていない児童が見られ、めあてを意識した振り返りの定着が課題である。

## 12. 資料

## I 時間目





## 第2学年 国語科学習指導案

指導者 林 公美

1. 日 時 令和7年10月7日(火) 第6時限目(14:30～15:15)
2. 学年・組 第2学年1組 在籍33名
3. 場 所 2年1組教室
4. 単 元 名 「絵を見てお話を書こう」(東京書籍)
5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、物語を書くこと。

この付けたい力をはぐくむために、「物語を書く」という言語活動を設定する。前単元「ニャーゴ」において、人物がしたことや言ったことのわけを考え、想像を広げる学習を行っている。また、日常生活の中で、絵本を読んだり、テレビや映画を見たりして、さまざまな想像の世界との出会いを体験している。そして、「始め」「中」「終わり」の順序を考え、自分の経験を伝える文章を書く学習もしてきている。それらのことを踏まえ、児童の自由な発想で物語を書かせるとともに、書いた物語を読み合い、自由に感想を共有することの喜びを味わわせたい。楽しみながら取り組むことで、児童の考えが深まると考える。また、本単元の「言葉の力」は、創作活動のみならず、文脈のつながりを意識するという点で、日常生活にも生かすことができると考える。

### 6. 単元目標

- ◎内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
- ◎簡単な物語を書くことができる。

### 7. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

- ・ 1年生1月教材「おはなしをかこう」で、登場人物がどのようなことをするのかを考えて、物語を書く経験をしている。
- ・ 2年生5月教材「名前を見てちょうだい」で、物語を場面ごとに分ける経験をしている。
- ・ 学校評価アンケートで肯定的回答をした児童は、「国語の学習がわかる。」の項目では79%、「友だちと話し合いながら学習することは楽しい。」の項目では76%、「先生や友だちの話を聞いて、相手の考えを理解することができる。」の項目では85%と、高い割合であった。しかし、「自分の考えをわかりやすく説明することができる。」の項目では52%と低い割合であった。
- ・ 考えたことを文章で表すことができる児童もいるが、書き表すことが難しく、支援を必要とする児童も見られる。
- ・ 書いた文章を学級全体で発表することに苦手意識をもつ児童が多く、話すスピードが速くなったり、声が小さくなったりして、聞き取りにくいこともある。
- ・ 発表することの苦手意識が薄れ、自信につながっていくよう、自分で書いた文章を朝の会で発表する機

会を設けている。

## (2) 教材観

- ・ それぞれの場面で、人物の様子がどのように変化しているか、何が起こったかを想像しやすく、場面と場面とがどのようにつながっていくか想起しやすい絵が提示されている。
- ・ 児童が四コマの絵を見て、自分の考えや思いを自由な発想で発言できることから、話し合い活動に取り組みやすい。
- ・ グループでアイデアを出し合い、友だちの発想のおもしろさを取り入れたり、言葉の使い方の楽しさを参考にしたりして、想像の幅を広げやすい。
- ・ どうしてこんな困った事態が起こったのか、その原因ばかりを考えるのではなく、どうやって解決したかも考えることで、「つながるお話を作る楽しさ」を味わわせることができる教材である。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 前单元「ニャーゴ」では、子ねずみの行動によって、ねこの気持ちが変わっていったことを想起させたうえで、この单元で身につけたい「言葉の力」を確かめる。
- ・ 物語を書くうえで、場面と場面がつながるように気をつけることを確かめる。
- ・ 「絵を見て、起こったことを自由に想像してお話を作る」という目標に挑戦することを伝え、意欲を喚起する。
- ・ 学習の流れを確かめ、単元の見通しをもつ。

### (第Ⅱ次)

- ・ 絵を見て、それぞれの場面の様子や人物がすることなどを想像する。
- ・ 絵と文章を比べ、会話文の組み込み方や場面設定に関する言葉、話をつなぐ言葉、人物の様子を表す言葉をおさえる。
- ・ 場面と場面がつながるように想像してお話を考えて書く。
- ・ 書いたお話を読み合い、感想を伝え合う。

### (第Ⅲ次)

- ・ 「うまくできたこと」「書き方について分かったこと」をまとめる。
- ・ 友だちのお話で、おもしろかったところや感心したところを発表する。
- ・ 場面がつながるように、どのようなことを工夫してお話を書いたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめる。

### (単元を通して)

- ・ 毎時間振り返りを行い、めあてに対して自分はどこまでできたのか、自分の考えを表現する場を設定することで、自らの学びを自覚できるようにする。
- ・ 話し合い活動を行う際には、必ず自分の考えを発表するようにする。

## 8. 単元指導計画(全10時間 本時 第4時)

- ① 場面のつながりを考えてお話を書く、という見通しをもつ。
- ② 登場人物のしたことを中心に、場面の様子を想像する。
- ③ 場面の様子を示す絵をもとにして、物語がどのように書かれているかを理解する。

- ④ 場面と場面がつながるように、③の場面を想像する。(本時)
- ⑤ ③の場面の様子を絵に描き、お話の文章を考える。
- ⑥⑦ 絵を見て想像したことから、場面のつながりを考えてお話を書く。
- ⑧⑨ 書いたお話を読み合って、感想を伝え合う。
- ⑩ 単元の学習を振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめる。

## 9. 本時の学習 (4/10)

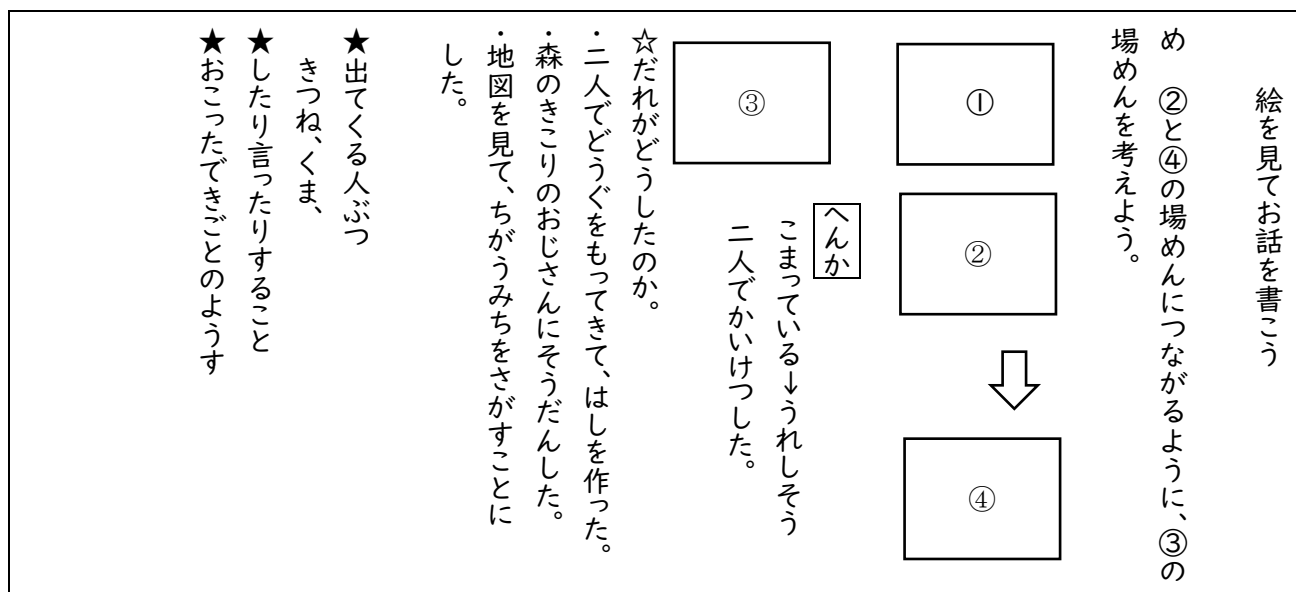
### (1) 本時の目標

- 場面と場面がつながるように③の場面を想像することができる。

### (2) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の学習内容を確認する。	・ 前時までに学習したお話の流れを想起させる。
②と④の場めんにつながるように、③の場めんを考えよう。	
2. ③の場面の人物の行動を考え、グループで発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ②の場面から④の場面への変化に着目させる。</li> <li>・ ③の場面では、誰がどうしたのかが分かるよう、一文にまとめさせる。</li> <li>・ 友だちの発表を聞いて、自分の考えに付け足したり、変更したりしてもよいことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ ③の場面で起こる出来事を考えたり、広げたりすることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(ワークシート・発言)</p> </div>
3. ③の場面の人物の具体的な行動を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ③の場面の様子を具体的にするため、「登場人物」「会話」「解決方法」などをワークシートに書き出させる。</li> <li>・ ②の場面と④の場面のつながりを意識させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ ③の場面で起こる出来事を具体的に考えることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(ワークシート・発言)</p> </div>
4. グループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ③の場面で起こる出来事を発表することで、自分で考えた場面の様子のイメージをよりはっきりと持たせる。</li> </ul>
5. 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ③の場面の出来事を文章に書いていくことを伝える。</li> </ul>

## 10. 板書計画

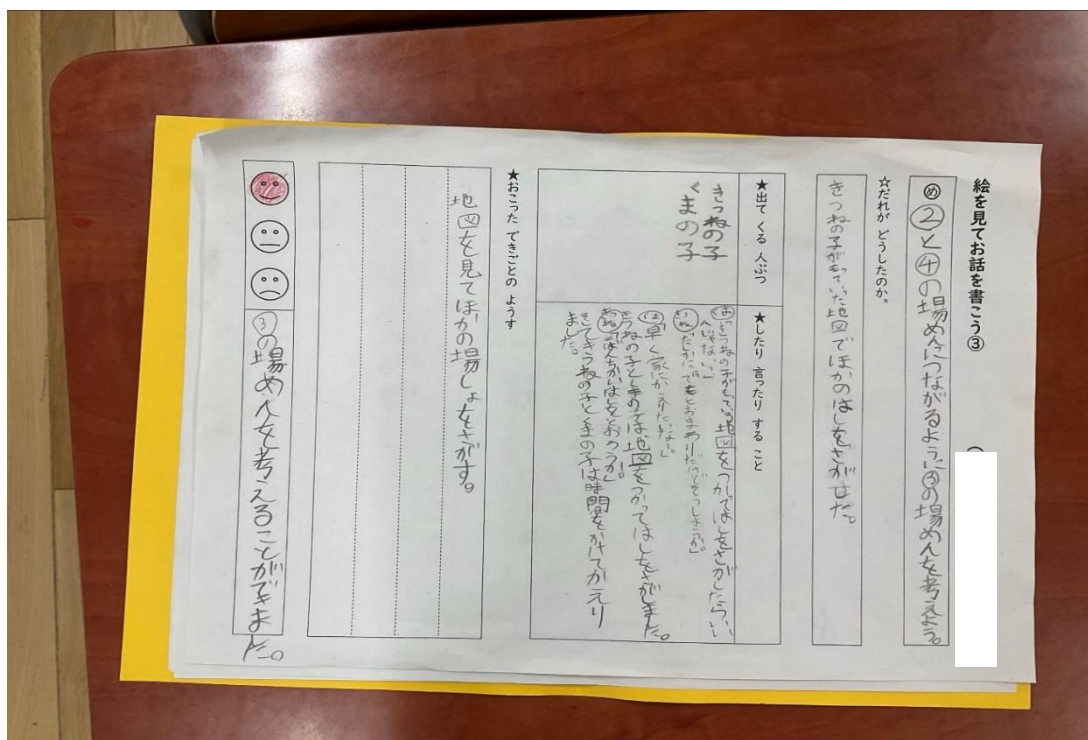
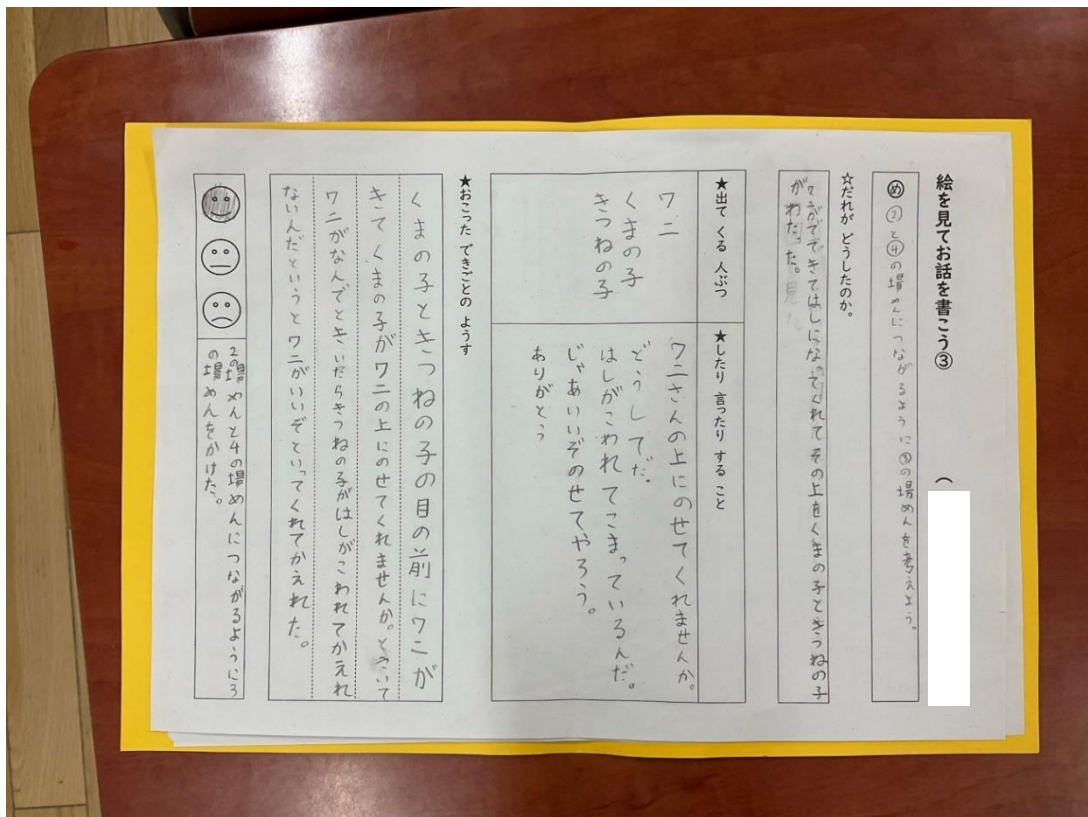


## 11. 成果◎と課題●

- ◎ ③の場面の人物の行動を考えた後、グループで発表させたことにより、どのような話にすればよいか悩んでいた児童にとって気づきがあった。
- ◎ あらすじを先に設定したことで、登場人物の会話や解決方法などの具体的な内容を想像し、書くことができた。
- ◎ ②と④の場面がつながるように③の場面を考えさせたので、現実に関わりそうな出来事を考えることができた。
- ◎ ④の場面のきつねの子とくまの子の表情に注目させ、③の場面では問題を解決し家に帰ることができたことを抑えたことで、前向きな出来事を考えることができた。
- ◎ 考えを互いに発表することで、自分では思いつかなかった物語の展開を知ることができたり、自分の考えに自信をもてたりするなどして、楽しみながら取り組むことができた。
- ②と④の場面がつながるよう、登場人物が「したり言ったりすること」、「おこったできごとのようす」の二つに分けて考えさせたが、「したり言ったりすること」に絞って考えさせた方が児童は書きやすかったと考える。
- ③の場面では、くまの子ときつねの子が二人で解決したと設定したため、児童の考えが狭められ、新しい人物が登場するなどの多様な考えに結びつかなかった。
- ②と④の場面の挿絵に描かれている道具を使って、③の場面で起こる出来事を解決しようとする児童が多く見られた。そのため、オリジナル性に欠ける内容となっていた。



## 12. 資料



# 

### 

<p>主体的な学び</p>	<p><b>視点1</b> 学ぶこと自体に興味や関心が持てるようにはたらきかける</p> <p>①学びのゴール・学習者の考えを意識した単元計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者がつきたい力を意識し、「やりたい!」と思う言語活動を設定する。そして、単元の見開きの「言葉の力」を確かめどんな力を付けるのか学習の見通しをもてるようにする。</li> </ul> <p>②学習者が学びを自覚するための振り返り方法の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元計画と振り返りを同じワークシートに書くことで学習者がその時間のめあてを達成するために自分がどう学習したのかを意識して振り返ることができるようにする。</li> <li>3次で学習する際に問い返しを行うことで、児童が自分の考えや表現を客観的に見直し、理解を深めることができるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="379 831 1417 1211"> </div>
<p>対話的な学び</p>	<p><b>視点2</b> 自分の考えを伝え合い、考えを広げるための場の設定</p> <p>①学習者が課題解決に向かって自らの学びを選択できる交流形態・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペア交流や全体交流だけでなく、課題を解決するために一人で学ぶことを選んだり、自由交流で話し合う相手を自分で選んだりできるような交流形態・方法を考える。</li> </ul>

### 

- ◎ 振り返りの観点を明確にしたことで、学習者はその時間に「できるようになったこと」や「分かったこと」を言葉で整理でき、自分の学びを実感することができた。
- ◎ 交流形態や方法を学習者自身が選択できるようにしたことで、課題解決に向けて「誰の考えを聞くとよいか」「どのように話し合うと考えが広がるか」を意識した交流が行われるようになった。
- ◎ 学習のゴールを明確に示し、単元を通した見通しをもたせることで、学習者が「何を身に付けるのか」「何のために学ぶのか」を意識しながら学習に取り組む姿が見られた。特に、単元冒頭で「言葉の力」を確認し、学習で付けたい力を共有したことにより、学習への意欲が高まり、主体的に課題に向かう態度の育成につながった。
- ◎ 一次・二次の授業での振り返りを重ねることで、学習内容の理解が定着した。また、三次で成果物を用いた



振り返りを行うことで、学びを客観的に捉え直し、学習の意味を実感する姿が見られた。

- 発言や交流は活発になったが、理由付けや根拠をもとにした対話、考えの違いを生かす対話にはさらなる指導の工夫が必要。
- 話し合いで考えを共有したり比べたりするには、自分の考えを持っておくことが大切だと感じた。そのため、自分の考えを整理できる工夫も一緒に考えていく必要がある。
- 振り返りが「できた・楽しかった」で終わる場面もあり、学びの変容（どのように考えが変わったか）まで書かせる支援が課題。

1. 日 時 令和7年11月26日(水) 第5時限目(13:40~14:25)
2. 学年・組 第3学年2組 在籍 30 名
3. 場 所 3年2組教室
4. 単 元 名 想どうしたことをつたえ合おう「モチモチの木」(東京書籍)

5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。

この付けたい力をはぐくむために、「登場人物紹介カードを作ろう」という言語活動を設定する。本題材では、場面や情景、対人物の様子が変化するなかで、豆太の気持ちや性格も変化していくことを読み取ることができる。「登場人物の性格を紹介する」という活動を取り入れることによって、単元で獲得した力を活かし、人物の性格や気持ちを場面・情景の変化、対人物の様子や叙述をもとに考え、表現することで児童の学習がさらに深まると考える。以上の活動から、今後の読書や物語文での学習では、意欲的に場面や情景を捉えたり、登場人物や対人物に注目したりして読み進めることでさらに、読書をする面白さへつなげると考える。

6. 単元目標

- ◎ 物語の登場人物の性格について、地の文と会話文を手がかりに想像したことを伝え合うことができる。
- ◎ 学習したことを活かして、別の物語文の登場人物の性格を想像し、「登場人物紹介カード」を作ることができる。

7. 指導にあたって

(1) 児童の実態

- ・ 2年生の「かさこじぞう」では、昔話のおもしろさを見つける力をつけるための活動をしている。
- ・ 「サーカスのライオン」では、対人物を捉えながら、中心人物の行動や気持ちを捉える活動をしている。
- ・ 登場人物の気持ちや考えを想像することはできるが、叙述をもとに理由をもって登場人物の気持ちや考えを想像することは苦手な児童が多い。
- ・ 自分の考えや登場人物の気持ちを想像することはできているが、文章や言葉で表現をすることが苦手な児童が多い。
- ・ 授業での物語文は興味・関心をもって読むことはできている。
- ・ 読書は好きであるが、図鑑等の絵や写真が多い本を読むことが多く、物語文を読む児童は少ない。
- ・ 児童アンケートの結果から、友だちの考えを聞いたり、話し合いながら学習したりすることが好きな児童は多いが、自分の考えを分かりやすく説明することは苦手な児童が多いため、相手の考えを反映させたり、考えを深めることはまだ難しい。

- ・ 振り返りは毎時間、学習で分かったことや友だちの意見を聞いて理解できたか等の観点で行っているが、平仮名が書けない児童もいるので、どのくらいめあてや学習したことを理解することができたか A・B・C で示すことができるようにしている。

## (2) 教材観

- ・ 豆太の子どもらしい感覚や行動がいきいきと描かれ、豊かに想像を広げながら共感的に読み進めることができる。
- ・ 場面ごとの副題がついているので、場面の移り変わりが明確であり、豆太の気持ちの変化と結びつけながら読むことができる。
- ・ 教材の舞台となる時代はかなり昔に設定されているが、子供たちにとって身近な年齢である「豆太」が主人公であり、気持ちの変化をより共感的に想像することができる。
- ・ この作品は、はじめに豆太のおくびょうな性格が示され、物語が進む中でその変化が描かれている。山場では、じさまを助けるために勇気を出して行動し、モチモチの木の灯を見ることができた理由を考えることで、豆太の気持ちに気付きやすい。
- ・ 「登場人物紹介カードを作ろう」では、既習の教科書の物語文を使用することで、興味を持って登場人物の気持ちの変化や性格、情景の理解、場面の移り変わりや対人物の様子と結びついて具体的に想像しやすい取り組みである。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 「モチモチの木」に興味関心を持たせ読みを深めるために、不思議だな・なんでだろうと思ったところに線を引いたり、初発の感想で疑問や気になるところを書いたりするようにする。
- ・ 人物の性格を想像するために、地の文と語り手の意味を確認する。
- ・ 「登場人物紹介カードを作ろう」という学習のゴールを示し、身に着けたい力を確認したうえで、学習の計画を立てる。
- ・ 物語の内容理解を深めるために分からない言葉や必ず調べてほしい言葉を提示し、意味調べをする。

### (第Ⅱ次)

- ・ 豆太の性格を考える際は、物語に書かれている性格だけでなく、言葉の広場を活用することで語彙を増やし、表現を広げることができるようにする。
- ・ 言葉の広場や物語を読んだなかで意味が理解できなかった言葉を調べるようにする。
- ・ 豆太の性格を考える際には、場面・情景の変化や対人物の様子に着目させ、線を引いたりすることでどの叙述や様子からそのように考えたのかを書けるようにする。
- ・ 豆太は勇気がある子になったか、なれていないかを読み取らせるために、「豆太はもう一度同じことになったら、どうするのか」を考えさせることで、考える動機付けが出来るようにする。
- ・ 豆太の性格の変化を考えるときには、一人で考える→ペアトーク(同じ班)→全体交流の順で行うことで多面的・多角的な考えに触れることができるようにする。
- ・ 「モチモチの木」の登場人物紹介カードを作成する際には、叙述を根拠に自分の考えを持って、どんな登場人物なのか紹介できるようにする。また、どの場面の内容が心に残ったかを書くことで場面や情景にも注目できるようにする。

### (第Ⅲ次)

- ・ 第Ⅱ次では、場面・情景の変化や対人物の行動に着目させながら、気持ちを読み取り性格を考えた。そのため、「登場人物紹介カードを作ろう」を作成する際も場面・情景の変化や対人物の様子、気持ちや性格が書かれている叙述に着目し、考えるようにする。
- ・ 「登場人物紹介カードを作ろう」を作成する際は、既習の物語文の候補を複数用意し、自己選択させることで主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 作成した「登場人物紹介カード」を共有する際には、どの物語について書いたかを黒板に自分の名前ボードをつけ、グループ化することで同じ物語でも感じ方や考え方のちがいの良さに気付けるようにする。

(単元を通して)

- ・ 毎時間振り返りを行うことで、「どのようなことが分かったのか」「自分の考えはどう変化したのか」を自分の言葉で表現し、自分の学びを自覚できるようにする。
- ・ 必ずどの叙述から自分の考えができたのかを示すようにする。
- ・ 場面・情景の変化、対人物の行動、地の文、会話文に含まれる方言や言い回しなどにも着目しながら、読み進められるようにする。
- ・ 難しい語彙が多いので、確認していきながら読み進めていくことで語彙の量を増やす。
- ・ 交流するときは、考えが同じところには赤線、納得は星マーク、自分とまったく違う言葉が出た際はその言葉だけをメモ等の交流の仕方を提示する。
- ・ 振り返りが抽象的にならないように、まとめとは別に必ずめあてや学習の仕方に対しての振り返りを書けるようにする。

## 8. 単元指導計画(全10時間 本時第7時)

(第Ⅰ次)

- ① 身近なキャラクターの性格を言葉の広場を使って確認する。
- ② 地の文と語り手の確認し、初発の感想を書く。
- ③ 感想を共有し、単元のゴールを確認して学習計画を立てる。
- ④ 物語や言葉の広場で分からなかった言葉を意味調べする。

(第Ⅱ次)

- ⑤ 言葉の広場を活用し、じさまが倒れる前の豆太の性格・気持ちを考える。
- ⑥ 言葉の広場を活用し、じさまが倒れた後の豆太の性格・気持ちを考える。
- ⑦ 叙述をもとに豆太の人物像を読み取って、伝え合うことができる。(本時)
- ⑧ モチモチの木の「登場人物紹介カード」を作成する。

(第Ⅲ次)

- ⑨ 単元で学習したことを活かして「登場人物紹介カード」を作成する。
- ⑩ 「登場人物紹介カード」を共有し、単元の振り返りをする。

## 9. 本時の学習(7/10)

(1) 本時の目標

- 叙述をもとに豆太の人物像を読み取って、伝え合うことができる。

(2)展 開

学習活動	指導上の留意点
<p>1. 本時の学習内容を確認める。</p> <p>2. 豆太の性格の変化を振り返る。</p> <p>3. モチモチの木の最後の場面を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習計画をみて、前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認める。</li> <li>・ じさまが倒れる前の性格と倒れた後の性格ごとに振り返ること、変化に気づきやすいようにする。</li> <li>・ 隣の人に聞こえるか聞こえないかの声で各自音読させる。</li> </ul>
<div data-bbox="336 768 1099 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 豆太は勇気があるのか・ないのかを考えよう。</p> </div>	
<p>4. 終わりの三文に着目させ、豆太は勇気がある豆太になったのかを考える。</p> <p>5. ペアや全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ勇気があるのか・勇気がないのかをどの叙述から考えたのか書くように伝える。また、スムーズに書くことができるように書き方を掲示する。</li> <li>・ 自分の考えをうまく表現できない児童には、じさまが倒れる前と倒れた後を想起させ、どんな豆太になったのかを考えさせる。</li> <li>・ 叙述が見つけづらい児童には机間指導を行い、他の児童がどこに注目しているかを助言する。また、周りの友だちと考えるように促す。</li> </ul> <div data-bbox="678 1283 1417 1422" style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>★ 豆太の性格を想像し、表現することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(発言)(ノート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班の人の意見を聞いて、自分が大事だと考えた意見をメモするように伝える。また、必ずどの叙述からそのように考えたのかを話し合うように伝えたり、メモの仕方を掲示したりする。</li> <li>・ 班や全体での交流を通して、考えが変化してもよいことを伝える。</li> </ul> <div data-bbox="670 1738 1430 1877" style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>★ 自分が考えた豆太の性格を伝え合うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】(発言)</p> </div>

6. 豆太はもう一度同じことになったら、どうするのかを考える。	・ 自分が考えた性格を踏まえて、また同じことになった際に豆太がどのような行動をとるのか考え、ペアや班の児童と交流し、発表する。
7. 本時のまとめ・振り返りを行う。	・ まとめをスムーズに書けるように書き方を掲示する。 ・ 振り返りが難しい児童は、A・B・Cを選択することや、振り返りシートの書き方から型を選択し、書くように促す。

## 10. 板書計画

モチモチの木  
斎藤 隆介 文

め  
豆太は勇気があるのか・ないのかを考えよう。

じさ  
じさ  
・ おくひよう  
・ よわむし  
じさ  
じさ  
・ 勇気のある  
・ やさしい

★ 豆太は勇気があるのか・ないのか  
○ 豆太は勇気があると思う  
・ モチモチの木は勇気のある子どもしか見れないから。  
・ 大すぎなじさのため、医者様をよびに  
○ 豆太は勇気がないと思う  
・ また、しょんべんにいくときにじさを起こしたから。

★ 豆太はもう一度同じことになったら、どうする  
・ 助ける・助けないと思います。なぜなら  
・ 次も助けに行くといいです。なぜなら勇気があるからです。  
・ 助けるといいです。なぜなら勇気がないけれど  
・ じさ  
まとめ

豆太は○な人物だと思う。なぜなら  
考えたから。

★ ふりかえり  
・ 豆太のせいはいくつかわっているように感じた  
・ 勇気があると思っていたけど、最後の分をよ  
く考えるとおきょうにも考えられると思った。

## 11. 成果◎と課題●

- ◎ 登場人物の性格を考える際、ほとんどの児童が叙述をもとに考えることができた。
- ◎ 児童間の話し合いの場面では、叙述と自分の考えを含めて、性格を伝え合うことができていた。
- ◎ 児童の話し合いや発言で授業を進めることができた。
- ◎ 考えや振り返りの際は話型を提示することで、児童が主体的に書き進めることができた。
- ◎ 学習計画を立てることで児童が見通しをもって、学習に取り組めるようになった。
- 全体交流の際には、児童が発表しただけになってしまい、考えが広げることができなかったため、つなぎの問い返しが必要であった。
- 本時では、時間を少し超過した為、どこに時間を取るのか検討する必要があった。
- 発言として正しい言葉がつかえていない場合は、ほかの言葉に置き換える必要があった。
- 最後の発表の際は授業者が児童の考えを把握し、発表させる必要があった。





学 習 計 画		① 意味調べ	② じつまがたお れる前の豆太	③ じつまがたお れ後の豆太の せいかを考慮 する。	④ 豆太がどんな 人物なのかにつ いて考える	⑤ 物語主人公の 人しやうかん をたづねる	⑥ 登場人物 のしやうかんか をたづねる	⑦ しょうかんか を代表する	⑧
自分と友だちの考えをくらべな かちで書くことができた。 A・B・C	A	A	A	AA	A	A	A	A	
友だちの考えを聞いて、「なるほ ど」と気づくことができた。 A・B・C	B	A	AAA	A	A	A	A	A	
① 今日の前で書いて【0000000】というものができた。 ② ①の【0000000】という考えを聞いて、なるほどと気づいた。 ③ ②の【0000000】と考えると、〇〇〇〇〇〇の意見を知って考えがかわった。	じつまがたお れ前の豆太の 人しやうかん をたづねる。	じつまがたお れ後の豆太の せいかを考慮 する。	豆太はゆいん のあつたも とに、おた る。	豆太がどんな 人物なのかにつ いて考える。	物語主人公の 人しやうかん をたづねる。	登場人物 のしやうかんか をたづねる。	しょうかんか を代表する。	⑧	



学	習	計	画
①	意味調べ		
②	じさまがたおれる前の豆木		
③	じさまがたおれた後の豆木のせいかくを考える。		
④	ロミオがどんな人物なのかについて考える。		
⑤	モチモチの人物しうがいかいどを7つ考える。		
⑥	登場人物しうがいかいどを7つ考える。		
⑦	しうがいかいどを発表する。		
⑧			

1. 日 時 令和7年6月25日(水) 第5時限目(13:40~14:25)
2. 学年・組 第4学年1組 在籍28名
3. 場 所 4年1組教室
4. 単 元 名 表し方のくふうを考えよう

「広告を読みくらべよう」(東京書籍)

5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

この付けたい力をはぐくむために、「スマイルフェスティバルの宣伝ポスターを作ろう!」という言語活動を設定する。教材文として示された2つの広告は、いずれも体温計の広告であるが、書いてある事柄や、言葉の使い方(キャッチコピー)、写真の選び方・使い方がそれぞれに違っている。ポスターを作るためには、それぞれの広告の表し方の違いとその効果について考え、広告の作り手の意図や目的を読み取る力をつける必要がある。広告の作り手の意図や目的を読み取り、それについての感想や考えをもつだけでなく、それを活かせる取り組みを行うことにした。そして、ポスターを見せ合い、友だちが作ったポスターの意図や目的を読み取ったり、自分が学習したことを基にどのような意図でポスターを作ったのかを伝えたりする。そうすることで、児童の考えが深まると考える。また、委員会活動や総合的な学習など、実生活にも活かすことができると考える。

6. 単元目標

- ◎ 広告の作り手の意図や表し方の工夫を読み取ることができる。
- ◎ 学習したことを活かして、宣伝ポスターを作り、意図を説明することができる。

7. 指導にあたって

(1) 児童の実態

- ・ 3年生の「給食だよりを読みくらべよう」で、同じ目的であるが、取り上げている事例や説明が異なる2つの文章を読み比べる経験をしている。
- ・ 実生活の様々なテキストを読み比べ、意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る学習をするが、学級の児童にとっては、学習の発言の様子から、物語文に比べて、説明的な文章は親しみにくい傾向がある。
- ・ 国語科の学習だけではなく、ほかの教科の学習でも話し合い活動に取り組んでいるが、自分の考えたことを言葉にして伝えることが難しい児童が多い。
- ・ 友だちの声を聞いたり、必要な情報を伝えたりして、問題を解決するという経験を積み、友だちと話し合いながら問題を解決する楽しさを実感できるようにグループワークに取り組んでいる。
- ・ 友だちの考えを聞いて、自分の考えと比べることや共有はできても、その考えを自分の考えに反映させ

たり反応したりして、考えを広げることはまだ難しい。

- ・ 国語科の「こわれた千の楽器」「走れ」「ヤドカリとイソギンチャク」では、学習のゴールを示し、学習プランを児童と一緒に立てた。そうすることで児童は見通しをもち、前向きに学習に取り組むことができるようになってきた。
- ・ 毎時間「何ができるようになったか」「考え方はどうなったのか」など、振り返りを行っているが、「難しかった」「楽しかった」などの感想が多く、どのように学習したかなど学んだことや学習の仕方について 振り返るまでには至っていない。

## (2) 教材観

- ・ 広告がどのような目的や意図で作られているのか、どのように広告と向き合うのがよいのか、という文章から始まる。そのうえで、体温計の異なる2つの広告の読み比べに進んでいく。
- ・ 体温計についての広告として、家族の健康のために使いやすいことをアピールした広告と、子供の緊急時に使いやすいことをアピールした広告の2種類が提示されている。
- ・ それぞれの広告に書かれている事柄や言葉、使われている写真は明確に異なり、児童が作り手の意図や目的を捉えやすい教材である。
- ・ 身の回りの広告については、意図やくふうが読み取りやすいものをこちらからいくつか提示する。
- ・ 広告に使われている言葉の意図や目的に気づいたり、写真から多くの情報を得たりすることができることから、児童が自分の考えをもち、話し合い活動に取り組むやすい。
- ・ スマイルフェスティバルのポスターを作るのは、児童にとって興味をもち、意図や目的、工夫を表現しやすい取り組みであると考え。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 2つの広告を見比べ、感じた印象を共有することで、広告に対しての興味関心を高め、第Ⅱ次の学習につなげる。
- ・ 児童が学習の見通しをもてるように、この単元で身につけたい力(言葉の力)を確認する。
- ・ 「スマイルフェスティバルのポスターを作ろう!」という学習のゴールを示すことで、児童の興味関心を高める。(学級の出し物の宣伝ポスターを作る。)
- ・ そのゴールに向かって、身につけたい力をつけるにはどのように学習していくか、どのようなことを学習する必要があるのかを児童と一緒に考え、学習プランを立てる。

### (第Ⅱ次)

- ・ 第2時の2つの広告の違いを整理するときには、「ベン図」を使い、共通点や相違点が一目で把握できるようにする。
- ・ 第3時では、2つの広告が誰に向けて作られたものなのかを読み取るために、キャッチコピー・写真・写真の説明・商品の特長・順序の観点ごとに違いをまとめていく。
- ・ 第4時で印象の違いをまとめる際には、どちらの広告で商品を買いたくなるかを理由も一緒に考えさせて、交流させることで、作り手の目的によって印象が違ってくることをおさえられるようにする。

### (第Ⅲ次)

- ・ 第Ⅱ次では、比べることで意図やくふうを読みとったが、第Ⅲ次では、身の回りにある1つの広告を見て、意図やくふうを読み取らせることで、児童に表し方の工夫を読み取る力が身についたかを確認する。

- ・ 身の回りの広告は、意図やくふうを読み取りやすいものを選び、Google classroom を使って児童に配布する。
- ・ 話し合い活動では、「同じ広告を選んだ人と話し合いたい。」「違う考えも聞いてみたい。」「まだ1人で考えたい。」など、児童一人一人のニーズに合わせて話し合う相手を自分で選択できるようにすることで、学習課題を解決するためにより主体的に関わることができるようにする。
- ・ スマイルフェスティバルでクラスの出し物に来てくれるように、低学年・中学年・高学年の児童に向けた宣伝ポスターを作成するという意識をもたせることで、目的・相手意識をもって工夫を考えながらポスターを作ることができるようにする。
- ・ グループでポスターを作る活動を行う際には、学習用端末を活用する。スカイメニューを使ってポスターを作成するが、素材を用意し、それらを選択してポスターを作れるようにする。

(単元を通して)

- ・ 2つの広告の違いを読み取る際には、見比べやすくするために、ペアで広告1、広告2をそれぞれ教科書を開かせる。
- ・ 毎時間振り返りを行い、「どのような力が身についたのか」「自分の考えはどう変わったのか」など自分の言葉で表現する場を設定することで自らの学びを自覚できるようにする。振り返りの際に、児童が「楽しかった」「難しかった」などの振り返りにならないように振り返りの観点をワークシートに示しておく。
- ・ 話し合い活動を行う際には、グループやペアなど固定された友だちと話し合うだけではなく、課題解決のために、話し合う相手を自分で選択したり(自由交流)、1人で考えたり(自己対話)できるようにする。
- ・ 課題解決のために誰と話し合いたいのか、どう学習するべきなのかを自分で選択できるように、話し合いの観点を明確にしておく。また、「誰がどのような考えを持っているのか」が分かるようにネームプレートを使用する。

## 8. 単元指導計画(全7時間 本時 第5時)

(第Ⅰ次)

- ① 単元のゴールを確認し、学習計画を立てる。

(第Ⅱ次)

- ② 2つの広告を見比べて、同じところと違うところを整理する。
- ③ それぞれの広告から作り手の伝えたかったこと(意図)を読み取る。
- ④ 2つの広告のデザインから受ける印象の違いをまとめる。

(第Ⅲ次)

- ⑤ 身の回りの広告の表し方の工夫を見つけて、作り手の意図を考える。(本時)
- ⑥ 相手や目的を意識してスマイルフェスティバルのポスターを作る。
- ⑦ 作ったポスターを見て、意図やくふうを見つける 単元の振り返り

## 9. 本時の学習(5/7)

### (1) 本時の目標

○ 身の回りの広告の表し方の工夫を見つけ、作り手の意図を考えることができる。

### (2) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の学習内容を確認める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習プランをみて、前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認める。</li> </ul>
めあて 広告の表し方のくふうを読み取り、作り手の意図をまとめよう。	
2. 広告から表し方の工夫を探す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が準備したものから1つ選ばせ、表し方の工夫について考えさせる。</li> <li>同じ広告を選ぶ児童が複数いてもよい。児童の主体性を重んじつつ、作り手の意図が明確な広告を選べるよう適宜助言する。</li> <li>工夫が見つけられない児童には、着目するポイントを示したヒントカードを見せることで、気付きやすくする。</li> <li>友だちがどの広告について考えているかを知ることができるように、黒板にネームプレートを貼りにくるよう指示する。</li> <li>自分の考えがもてなかったり、整理できなかったりする場合は、友だちの考えを参考にしてもよいことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ 身の回りの広告から表現の工夫を読み取ることができる。 【思考力・判断力・表現力】(発言・ノート)</p> </div>
3. 表し方の工夫について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が課題解決のためにそれぞれが必要な話し合いができるように、話し合いの相手は自分で選択することを伝える。</li> <li>話し合う相手は、同じ広告を選んだ友だちだけではなく、違う広告を選んだ友だちと話し合ってもいいことを伝える。</li> <li>まだ1人で考えたい場合は、1人で考えても良いことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ 身の回りの広告から表現の工夫について、自分の考えを広げることができている。 【主体的に学習に取り組む態度】(発言)</p> </div>

4. 作り手の意図を考えてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合ったことを元に、広告の作り手の意図を自分の言葉でまとめることを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>★ 身の回りの広告から表現の工夫から、作り手の意図を考えことができる。 【思考力・判断力・表現力】(ノート)</p> </div>
5. 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの観点を明確にし、児童が自らの学びを自覚できるようにする。</li> </ul>

## 10. 板書計画

広告3

広告1

広告4

広告2

め 広告の表し方のくふうを読み取り、作り手の意図をまとめよう。

広告を読みくらべよう

- キャッチコピー
- 写真・色
- 商品の特長 説明
- 事がらの順じょ

## 11. 成果◎と課題●

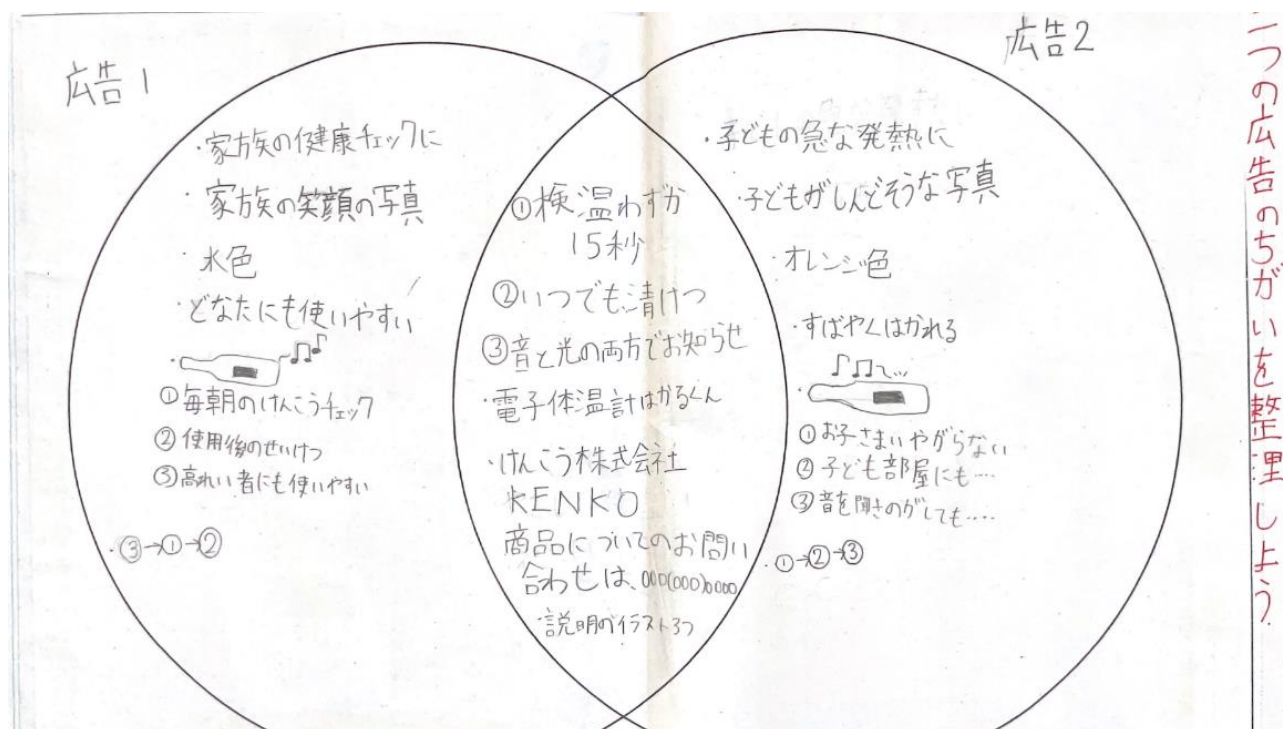
- ◎ 課題解決に向けて話し合う相手を自分で選べるようになったことで、目的に応じて相談相手を変えるなど、自ら進んで学びを広げる姿が見られた。同じ広告を選んでも、読み手によって捉え方がちがうことに気づき、1人では、気づかなかった意図や工夫に気づくことができた。
- ◎ スマイルフェスティバルのポスターをつ作るといふ、学校生活に直結した活動を設定することで、子どもたちが学習の目的を実感しながら取り組むことができた。
- ◎ 振り返りの観点を提示することで、子どもは分かったことや友だちの考え、身に付いた力を意識して振り返ることができ、学習のつながりを実感しながら次の学習へ向かうことができた。
- ◎ 2つの広告の比較に加えて、身の回りの広告の意図を読み取る学習を取り入れたことで、子どもたちは広告の狙いを多角的に捉える力を育て、学んだことをスマイルフェスティバルのポスター作りの際にも活用

することができた。

- ◎ 広告の意図を読み取るための観点を明確にすることで、子どもたちは意図を読み取るポイントを押さえながら、色や言葉、表現の工夫を実生活と関連付けて考えるようになり、広告を深く分析する姿が見られた。
- 相手意識をもってポスター作りができるように、低学年・中学年・高学年に合わせて目的を工夫したポスター作りを行ったが、子どもたちは主に文字の表記やイラストで工夫することが多く、それ以外の表現方法を考えることはまだ難しかった。
- 広告を見て印象を書くことができる児童は多くいたが、作り手が何を伝えたいのか（意図）を書くことができる児童は少なかった。
- 自由交流の際に、同じ広告を選んだ人が集まって話し合いをしていたが、人数が多く、聞くだけになってしまったり、自分の考えをなかなか伝えることができなかったりした児童がいたので、話し合いを行う際には、2～3人までが望ましいと感じた。
- ポスターを作る際、時間内に作ることや書く条件ばかりに目がいき「言葉の問い返し」をしなかったため、言葉の力が付いたことがわかるポスターにはならなかった。→成果物を見て問い返しを行い、ふり返し改善する活動を行った。

## 12. 資料

### 2時間目





④二つの広告に書かれていることがなぜ違うのかを考えよう。

だれに向けた広告なのかな。

②二つの広告の印象のちがうところ

●どちらの広告で商品を買いたくなりますか。



5時間目

●作り手の意図や目的をまとめよう。

早くとどけたい。たりやきでかた  
すきな人向け。

選んだ広告 ②

(表し方の工夫)

キャッチコピー	アリアリのピザをいばい
写真	おもしろい。
色	ちがとかピカピカおもしろい。
商品の特長	くろだから、かついい。
その他	アリのピザのピザ。アリ アリのピザがおいしいのびる。

よせのまはとよのまをきく。み取り作り。あちこちへ。

言語活動

誰でも遊べる明るいコイン落とし

コイン落とし



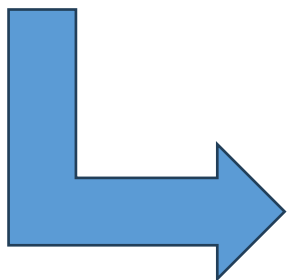
説明が  
わかりやすく  
早く終わる

わくわく仲良く  
楽しく遊べる

4年1組

7月4日

4年1組の教室



3次で成果物を見ながらふり返った後

中学年でも楽しめる！



ワクワクする  
入るか入らないか  
ドキドキしながら  
遊ぶことが  
できる。

いっぱい遊べる  
説明が  
わかりやすく  
早く終わる。

2枚落とせる  
はん全員  
チャンスは  
2回あります。

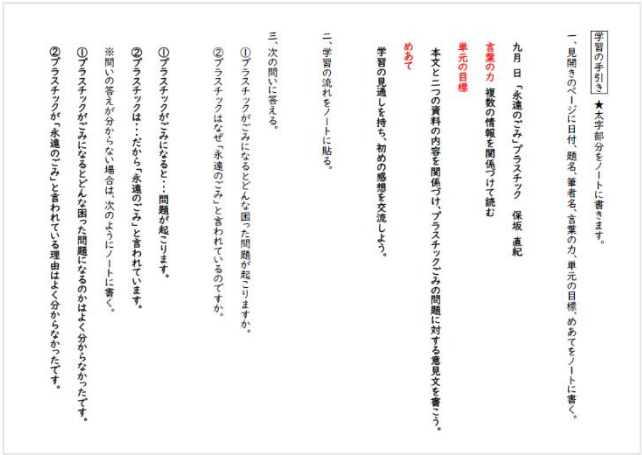
7月4日

4年1組



# 高学年の取り組み

## ○取り組み内容

<p>主体的な学び</p>	<p><b>視点1</b> 主体的な学びを支える基盤を整える</p> <p>①「学習の手引き」の活用を中心に授業を進める          (「学習の手引き」…めあてや活動内容、自分の考えのまとめ方の例など、板書を全て記載したもの。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の見通しを持つことで、自分で進め方を調整する力を育てる。</li> <li>・ 次に何をするのかを明確にすることで安心して学習に取り組めるようにする。</li> <li>・ 指導者からの指示を最小限にし、45分間の学習時間を最大限に活用できるようにする。</li> <li>・ 学習の手引きに授業の流れを任せる部分をつくることで、指導者の机間指導の時間を確保し、理解に時間を要する児童への支援を増やす。</li> <li>・ 学習の手引きを見て次々に進めさせることで、理解の速い児童の授業中の空白の時間をなくす。</li> </ul> 
<p>対話的な学び</p>	<p><b>視点2</b> 対話的な学びを豊かにする仕組みをつくる</p> <p>①習熟度別グループでの話し合い活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度の近い仲間と意見を出し合うことで、安心して発言できるようにする。</li> <li>・ 互いの考えを比較・共有したり、問い返したりすることで、交流の質を高め、考えを広げられるよう支援する。</li> </ul> <p>【習熟度別グループの編成の仕方】</p> <p>学習前の音読の宿題(学習者用端末で録画したもの)や理解度を確かめる数問の問いの解答内容、初発の感想、普段の成績結果をもとに、教師が習熟度別グループを編成する。</p>

## ○成果と課題(◎成果と●課題)

- ◎ 「学習の手引き」を活用することで、学習の見通しを持ち、自分のペースで学習を進められるようになった。ノートを書く量や時間を調整する力が身に付いた。
  - ◎ 話し合い活動に向けて、自分の考えをノートにまとめる意欲が高まった。
  - ◎ 話し合い活動では、互いの意見を尊重し合い、理解しようとする態度が育った。
  - ◎ 習熟度の高いグループでは、話し合いの中で、筆者の文章の意図や、言葉の持つ意味や働きを考える姿が見られた。さらに、お互いの意見が違ったときに、なぜ違うのかを根拠とした文や注目した要素、自分自身の経験・価値観に目を向けて考えることができた。
  - ◎ 習熟度の低いグループでは、話し合いに参加することができ、お互いの意見を伝え合うことができた。その根拠の共通点や違いを考えることができた。
- 
- 「学習の手引き」に頼りすぎると、児童が自らの課題をもって学習に臨む姿勢が育ちにくいと感じられることがあった。
  - 「学習の手引き」の内容を理解できない少数の児童への手立てが必要。
  - グループ編成が固定化されていくと、学習者の成長や多様な交流が制限されてしまう可能性がある。
  - 習熟度別グループごとに理解の差が出るため、全体交流では習熟度の低いグループの発言が注目されにくい。
  - 習熟度の低いグループの話し合いの質を上げるための継続した手立てを考える必要がある。

1. 日 時 令和7年12月10日(水) 第5時限目(13:40~14:25)
2. 学年・組 第5学年1組 在籍32名
3. 場 所 5年1組教室
4. 単 元 名 人物像について考えたことを伝え合おう「大造じいさんとがん」(東京書籍)
5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

この付けたい力をはぐくむために、「大造じいさんの人物像について文章にまとめ、伝え合う」という言語活動を設定する。人物像を捉えるためには、残雪との関係に基づいて変化する大造じいさんの心情を、叙述をもとに解釈する必要がある。各作戦での大造じいさんの心情を捉え、第三場面での残雪への大きな心情の変化をおさえたうえで、大造じいさんの価値観や生き方を想像することにつなげていきたい。また、情景描写にも着目して大造じいさんの心情を想像したうえで、多面的に人物像を検討していく。友達との心情の変化の交流から、様々な考えにふれ、比較・検討し、より妥当性のある考えにたどりつくことで児童の考えが深まると考える。こうした学習を通して、児童が自分なりの考えをもって、大造じいさんの人物像を具体的に想像し、表現できるようにする。また、これらの力を身につけることで、今後の読書においても、登場人物の心情を追うだけでなく、中心人物の人物像にも目を向けた、より深い読みへとつなげていきたい。

## 6. 単元目標

- ◎ 行動や会話文などから大造じいさんの人物像を想像し、考えたことを伝え合うことができる。
- ◎ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることができる。

## 7. 指導にあたって

### (1) 児童の実態

- ・ 5月に学習した「おにぎり石の伝説」では、人物の心情の変化を捉える経験をしている。登場人物の相互関係や心情の変化をほとんどの児童が捉えることができていた。
- ・ 9月に学習した「注文の多い料理店」では、紳士たちの人物像を考え、人物像を想像する手がかりを本文の叙述から探し出すことができていた。
- ・ 話し合い活動では、学校評価アンケート「友達と話し合いながら、学習することは楽しい。」での肯定的回答87%から、話すことには意欲的であることが分かる。しかし、相手の意見と比べて聞くことや、内容について活発に意見を伝え合い、考えを深めるという段階には至っていない。また、自分の意見に固執する傾向がある。
- ・ 話し合い活動において、「質問する」、「あいづち」、「相手の考えに対して自分の意見を述べる」、「共感・納得するところは賛同する」など話をつなげ、自分の意見と比べたり、相手の意見を尊重したりすることを意

識させている。

- ・ 学校評価アンケート「自分の考えをわかりやすく説明することができる。」の項目で肯定的回答51.1%から、順序立てて説明すること、自分の考えをまとめる際に、伝えたいことを整理することが苦手な児童が多いことが分かる。話し合い活動では、「主張→理由→(具体例)→主張」など順序立てて話せるように、毎回ポイントをおさえてから活動するようにしている。
- ・ 書く活動に苦手意識をもっている児童も多い。そのため、作文を書く際には、「ステップチャート」を活用し、観点に沿って順序立てて考えを整理している。
- ・ 「和の文化を受けつぐ」の学習では、ステップチャートを使って自分の考えを作文に書く活動を行った。ステップごとに見直すことができるため、自分で改善点に気づくことができるようになった。ステップチャートを活用することで、考えが整理され、読み手に伝わりやすい文章を書くことができるようになってきた。
- ・ 初発の感想や普段の成績をもとに習熟度別のグループを編成している。国語の学習時間には「国語席」としてグループごとの席に移動し、話し合いや活動を進めてきた。グループでの活発な話し合いの様子が見られるようになってきている。
- ・ 授業の流れをすべて書いたものを、「学習の手引き」として児童に学習者用端末に配付し、自分のペースでノートをまとめながら学習を進められるようにしてきた。理解の早い児童にとっては、空白の時間がなく、学習を進めることができ、理解に時間のかかる児童にとっては、「学習の手引き」を何度も見返すことで、学習を進めることができている。

## (2) 教材観

- ・ 「大造じいさんとがん」は、狩人の大造じいさんと、がんの頭領である残雪との間に繰り広げられる数年にわたる戦いを描いた物語である。
- ・ 残雪を仕留めようと、毎年さまざまな方法で迎え撃つ大造じいさんの姿が、一年ごとに丁寧に描かれており、時間の経過や場面の変化が明確で、物語の展開をつかみやすい構成となっている。
- ・ 物語の前半では、残雪を「たかが鳥」と見なしていた大造じいさんが、残雪の仲間を思う行動や頭領としての誇り高い姿に触れ、次第にその存在に敬意を抱くようになっていく。こうした心情の変化が、言動や情写を通して丁寧に描かれており、大造じいさんの内面を読み取りやすい。
- ・ 情景描写が人物の心情を表す技法であることを学び、情景描写を通して人物の心情を読み取ることができるため、描写を含む多様な表現の工夫に気づくことができる。
- ・ 場面ごとに大造じいさんの心情の変化を想像しながら、その人物像を捉える学習に適した教材と言える。
- ・ 残雪は鳥でありながら、賢く、仲間思いで、責任感と誇りを持った存在として描かれている。このような、人智を超えた動物の姿を描いた物語は他にも多く存在する。図書館の活用を通して、児童がさまざまな動物の描かれた物語に触れ、命や自然との関わりについて考えを深める機会を設定する。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 児童が主体的に学習を進められるよう、毎時間、「学習の手引き」を学習者用端末に PDF 形式で配付する。
- ・ 大造じいさんの人物像について文章をまとめ伝え合うことが単元のゴールであることを伝え、学習の見通しをもたせる。
- ・ 通読する中で、意味が分からない語句があれば線を引き、国語辞典で調べるよう促す。

- ・ 観点に沿って、初発の感想を書かせる。（「疑問に感じたこと」「心に残った場面とその理由」「大造じいさんはどんな人物か」など）

#### （第Ⅱ次）

- ・ 各場面での作戦名を考え、その結果を読み取ることで、物語の構成を捉えさせる。
- ・ 情景描写は、特定の場面の光景だけでなく、人物の気持ちをあらわす技法であることをおさえ、「誰の、どんな思いがこめられているのか」と問うことで、読解の視点を広げる。
- ・ 作戦ごとに、大造じいさんの気持ちの変化とその計画における粘り強さ、残雪に対する気持ちの変化を、描写をもとに丁寧に読み取らせ、山場の場面の気持ちの変化へとつなげていきたい。
- ・ 三つの作戦において、大造じいさんの気持ちの変化を考え、その根拠となる文を「大造じいさんの行動・台詞・情景描写」から捉えさせる活動を行う。心情を想像することを通して、各作戦の最後には残雪に対する気持ちの変化していることをおさえる。
- ・ 心情は自由に想像し書かせるが、必ず本文中に根拠となる文章を見つけ明確にさせることで、考えを裏付ける力を育てる。
- ・ 本時の「おとりの作戦（山場）」では、大造じいさんの残雪に対する気持ちが大きく変化する場面を取り上げる。描写をもとに、大造じいさんの残雪に対する気持ちが一番変化した一文を抜き出し、「どうして変化したのか」を、叙述をもとにして理由を考えさせることで深い読みにつなげていく。
- ・ 本時では、大造じいさんの気持ちが最も強く変化したのは、「銃を下ろした場面」と「頭領らしい態度に心を打たれた場面」の二つに意見が分かれることを想定し、児童が本文中の叙述から根拠をもとに自分の考えを交流することで、自分の考えを広げ、人物像を多面的に捉える力を育てる。
- ・ 「残雪を放つ場面」では、残雪の呼び方（たかが鳥→がんの英雄）の変化に着目させる。残雪に対する見方がどう変わったのか、またそのきっかけを考えさせることで、残雪の行動が大造じいさんの気持ちを変化させたことをおさえ、教材文についての読み取りを深めたい。
- ・ 毎時間の振り返りの際に、「大造じいさんの人がらについて考えたこと」という観点を入れることで、人物像を考えることにつなげ、作文に生かしたい。

#### （第Ⅲ次）

- ・ 人物像がわかる箇所を本文やノートから抜き出し、そこからどのような人物であるかをまとめさせ、作文に生かす。
- ・ 作文を書くための手立てとして、「ステップチャート」を使う。
- ・ 作文の交流を通して、考えを共有することで、教材文についての読み取りを深めたい。

##### ＜ステップチャートの内容＞

- ① 大造じいさんの人物像（結論）
- ② 根拠（本文中の言葉や文章を使ってまとめる）
- ③ 理由（根拠からどのように考えたのか）
- ④ まとめ（自分の生き方に重ねて、物語全体を通しての感想、学んだこと）

#### （単元を通して）

- ・ 並行読書を行い、作者の動物や自然に対する考え、表現（情景描写など）を知り、読書の幅を広げる。
- ・ 「学習の手引き」に従い、学習を進めることで主体的な学びにつなげ、自分のペースで学習する。
- ・ 話し合い活動では、「質問をする」、「自分の考えと比べて相手の意見を聞く」、「異なる意見を述べる」な

ど、意見をつなげるように意識させることで活発な意見交流につなげたい。

## 8. 単元指導計画（全8時間 本時 第5時）

- ① 学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。初発の感想を書く。
- ② 登場人物の確認をする。物語の構成をとらえる。
- ③④ それぞれの作戦での大造じいさんの気持ちの変化とその理由を考える。
- ⑤ おとりの作戦の場面での、大造じいさんの心情の変化とその理由を考える。（本時）
- ⑦ 「残雪を放つ場面」での大造じいさんの気持ちを考える。  
登場人物の人物像を、描写をもとに想像し、ステップチャートに整理し、文章にまとめる。
- ⑧ 人物像についての文章を伝え合い、感想を共有する。単元の振り返りを行う。

## 9. 本時の学習（5／8）

### （1）本時の目標

- 登場人物の心情の変化を、描写をもとに捉えることができる。
- 自分の考えを、理由や根拠を明確にして伝え合い、考えを広げることができる。

### （2）展 開

学習活動	指導上の留意点
1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大造じいさんの残雪に対する心情が、最初と最後で変わったことを確認する。</li> <li>・ 大造じいさんの残雪に対する心情が一番変わったところが、「おとりの作戦」であることを全体で確認する。</li> </ul>
<p>めあて</p> <p>大造じいさんの気持ちが<b>最も強く変わったところ</b>を読み取り、「どこで変わったのか」「なぜ変わったのか」を考えよう。</p>	
<p>2. 大造じいさんの残雪に対する気持ちが一番変わったところと、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちが一番変わったところに線を引く。</li> <li>・ 本文をもとに、理由を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>大造じいさん</b>について書いている文に着目させ、気持ちの変化が分かる一文に線を引かせる。</li> <li>・ 大造じいさんの気持ちの変化を探すときには、<b>残雪の「行動・様子」ではない</b>ことをおさえる。</li> <li>・ 叙述をもとに、根拠を明確にして理由を書くよう助言する。</li> <li>・ 一文をうまく抜き出すことができない児童には、大造じいさんが主語になっている文に線が引かれている画像を配付し、その中から選ぶようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★ 大造じいさんの心情の変化を、描写をもとに捉えている。</p> <p>【思考・判断・表現】（ノート・発言）</p> </div>

<p>3. グループで交流し、考えをまとめる。</p> <p>4. 全体で話し合い、一つの考えにまとめる。</p> <p>5. 本時の学習をまとめ、振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちが変わる場所が分かる箇所とその理由を、叙述をもとにして発表することをおさえる。 「気持ちが一番変わったところは、〇〇です。理由は、〇〇と考えたからです。」</li> <li>・ 友達の意見について、質問したり、異なる意見を述べたりして、意見をつなげるように促す。</li> <li>・ グループで挙げた考えをもとに、改めて「大造じいさんの気持ちが最も強く変わったところはどこなのか。なぜ変わったのか。」を全体で共有し考える。</li> <li>・ 残雪の行動に着目して、大造じいさんの気持ちが変わった理由を述べるよう促す。</li> <li>・ 大造じいさんの人がらについて考えたこと、大造じいさんの気持ちの変化について分かったこと、友達の意見について考えたこと、などの観点を示す。</li> </ul>
--	--

## 10. 板書計画

○ 振り返り

- ・ 大造じいさんの人がらについて考えたこと
- ・ 気持ちの変化について分かったことや考えたこと
- ・ 友達の意見について考えたこと

理由  
頭領としての威厳

・ 「強く心を打たれて、ただの鳥に・・・」

一番の気持ちの変化

理由  
仲間を助ける姿  
ひきょうなやり方でやつつけない

めあて

大造じいさんの気持ちが最も強く変わったところを読み取り、「どこで変わったのか。」「なぜ変わったのか。」を考えよう。

大造じいさんとがん



## 11. 成果◎と課題●

- ◎ 「気持ちが一番強く変わったところ」が予想通り、二つの考えに分かれ、話し合いの中で互いの意見を比べて検討する姿がみられた。
- ◎ 「国語席」での話し合い活動によって、自分の考えと比べて発言したり、他者の意見を取り入れようとしたりする姿勢が以前よりもみられるようになった。
- ◎ 「学習の手引き」を活用することで、学習の見通しがもて、次に何をすることが明確になった。それにより、自分のペースで学習でき、主体的な学びにつながった。
- ◎ ステップチャートを活用することで、考えの整理に役立てることができた。文章を書くことが苦手な児童も、項目ごとに見直すことで、少しずつ書くことができるようになった。
- ◎ 振り返りの観点を示すことで、この学習で何を学べたかを自覚し、次の学習へ生かすことができた。
- 話し合い活動で一つにまとめるのなら、「AとBの理由や根拠を比べる。」などの手立てがあるとよかった。まとめ方が分からず最終的に一つに決まらないグループもあった。
- 話し合い活動では、未だ意見の共有にとどまっている。児童間での「問い直し」や、意見をつなげていく活動を継続的にやっていく。
- 全体交流の場での、児童の発言が少なかった。グループの代表が意見を発表し、そこから児童主体で意見をつなげ、全体で考えを比較、検討できる活動にしていくべきだった。
- 個人で考える時間を多くとったため、話し合い活動時間が少なかった。
- 全体交流の場で、挙手で意見が変わったかどうか確認したが、友だちの意見に本当に納得して自分の考えを変えていたのかがわからなかった。そのため、ICTの付箋機能などを使い、自分の考えを全体で共有し、どの意見から自分の考えが変わったのか、具体的に説明することができるようにしてもよかった。

## 12. 資料

学習の手引き ★ □ でかこんだ部分をノートに書く。

一、めあてをみんなで音読み、確認する。

月 日

めあて

大造じいさんの気持ちが最も強く変わったところを読み取り「どこで変わったのか」「なぜ変わったのか」を考えよう。

二、「おとり作戦」での大造じいさんの残雪に対する気持ちが一番変わったと思う一文に赤で線を引く。（大造じいさんの行動・様子）

ポイント

・残雪の行動・様子ではない。

・一番気持ちが変わったところはどこなのか、何度も本文やノートを読み返して考える。（おとりの作戦）

三、ノートに、一番気持ちが変わった一文とその理由を、本文をもとにして書く。理由は、残雪の様子・行動から考える。

○気持ちが一番変わった一文

↓「

」 ↑ 本文から抜き出す（大造じいさんの行動）

理由：○○と考えたからです。（残雪のどんな姿から気持ちが大きく動いたのかを書く。）

四、グループ交流 ↓ 一つの意見にまとめる。

ポイント

・グループ内で大多数であるから、その意見に決定とは限らない。

・お互いの意見を聞いて、少数派の意見でも納得すればグループの意見としてとりあげること。

・友達の意見で、共感、納得することがあれば、改めて、自分のノートに付け足す。

五、全体で一つの意見にまとめる。

六、振り返りを書く。（三行以上）（文章で書きましょう。）

○振り返り

ポイント

・大造じいさんの人からについて考えたこと。

・友達の意見を聞いて、大造じいさんの一番の気持ちの変化はどこだと考える？（考えが変わってもよい。）

・大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化について考えたこと。

・友達の考えについて納得・共感したこと。

## 第6学年 国語科学習指導案

指導者 高山 桃音

1. 日 時 令和7年9月18日(木) 第6時限目(14:30~15:15)
2. 学年・組 第6学年2組 在籍25名
3. 場 所 6年2組教室
4. 単 元 名 プラスチックごみの問題について考えよう「『永遠のごみ』プラスチック」(東京書籍)
5. 付けたい力とそれにふさわしい言語活動

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

この付けたい力をはぐくむために、「学習したことをもとに、プラスチックごみの問題について意見文を書く」という言語活動を設定する。意見文を書くためには、教材文と2つの資料を関係付けながら読み、それぞれがどのように結びついているかを理解する必要がある。そこで、本単元では教材文と複数の資料を関係付けて読む力の育成を目指したい。教材文と資料の内容を読み取り、共通点や異なる視点を見出すことで、プラスチックごみの問題を多面的に捉えられる。関係付けて読んだ内容をもとに、事実に基づいて根拠を示したり、情報を整理して自分の考えを筋道立てて表現したりすることで、プラスチックごみの問題に対する主体的な見方や考え方が形成され、児童の考えが深まると考える。

### 6. 単元目標

- ◎ 教材文と、2つの資料の内容を関係付けて読むことができる。
- ◎ 筆者の主張をもとに、プラスチックごみの問題に対する意見文を書くことができる。

### 7. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

- ・ 5年生の「『文化を受けつぐ』ことについて考えよう」での学習において、情報を重ね合わせて読む経験をしている。教材文と資料を重ね合わせて読み取り、それらを関係付けて感想をもつことはできたが、その内容をもとに和の文化について考えを深めることはできなかった。
- ・ 6年生の「インターネットの投稿を読み比べよう」の学習では、意見文を書く学習に取り組んでいる。自分の経験を生かして意見文を書くことができる児童がいる一方で、自分の考えを言葉にできずに手が止まり、書き始められない児童の姿も見られる。書く力には個人差が見られる。
- ・ 音読の課題には継続的に取り組んでおり、録音した音読を聞いて振り返る活動も行っている。そのため、多くの児童は学習前に教材文のおおまかな内容を理解することができている。
- ・ 「学習の手引き」を用いて学習を行うことで、自ら進んで次の課題に取り組んだり、必要に応じて手引きを何度も見返したりすることができるため、自分のペースで学習に取り組むことができている。また、習熟度別に配置した「国語席」でグループ学習を行っている。

## (2) 教材観

- ・ 筆者の主張が文章の冒頭と末尾に配置された統括型の説明文であり、論の展開を追いやす構成となっている。文章構成が明確であるため、児童が筆者の意図や主張を捉えやすい教材であると言える。
- ・ 正しく廃棄されなかったプラスチックが海洋へ流出する仕組みや、それが環境に及ぼす具体的な影響について解説されている。その上で、一人ひとりが取り組める解決策や具体例が示されており、問題と対策を関係付けて理解できる内容になっている。
- ・ 資料1には、新たな技術による解決策の一例として「生分解性プラスチック」が取り上げられ、その特性や利点・課題が示されている。資料2には、「プラスチック製魚網を再利用した鞆」が取り上げられ、「資源の有効利用」という視点から、リサイクルの実践例として具体的に理解しやすい。
- ・ 教材文と2つの資料を合わせて読むことで、環境への影響や技術開発、リサイクルの推進など複数の視点からプラスチックごみの問題を捉えることが可能で、児童が多面的な視点をもつことができる教材である。

## (3) 指導観

### (第Ⅰ次)

- ・ 単元の導入では、プラスチックごみの問題に関する写真を提示し視覚的に問題の深刻さを捉えさせることで、児童の興味・関心を高め、第Ⅱ次の学習意欲につなげる。
- ・ この単元で身につけたい力が、「複数の情報を関係づけて読む」であることを児童と共有し、第Ⅲ次では意見文を書くことを伝え、見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 難語句を国語辞典で調べさせる。
- ・ 観点に沿って、初発の感想を書かせる。（「プラスチックごみの問題についてどう思うか」「プラスチックの使い方」）
- ・ 教材文を読み進める前に、児童の理解度を確かめるいくつかの問いを用意する。問いの答え、初発の感想、授業中の発言内容、学習意欲の観点から児童の実態を把握し、それに基づいてグループ分けを行い、国語席を決める。

### (第Ⅱ次)

- ・ 教材文の構成を把握するため、ノートに形式段落の番号を書き、各形式段落の内容を簡潔にまとめさせる。視覚的に捉える事で、論の展開や筆者の主張を把握しやすくする。
- ・ 上記でまとめた形式段落ごとの要点をもとに、筆者の考えが示されている形式段落を明確にし、それを文章化させることで教材文の要旨を捉えられるようにする。
- ・ 教材文と資料1の関係付けでは、共通点の把握に加えて、生分解性プラスチックの特徴や課題を読み取る。プラスチックごみの問題を解決するための「開発」という新たな視点について考える。
- ・ 教材文と資料2の関係付けでは、「リサイクル」の視点からプラスチックの再利用例を知る。教材文と資料2の共通点を読み取る。
- ・ 教材や資料1、資料2の読み取りを通して、「減らす」「リサイクル」「開発」など、プラスチックごみの問題の解決に繋がる視点をもつことができるようにする。
- ・ 本時では、意見文を書く活動そのものを目的とするのではなく、意見文の根拠となる考えを形成する学習として位置付ける。教材文や資料を関係付けて読み取った内容をもとに考えた解決方法を、「効果の大きさ」「持続性」を基準に評価し、その理由を整理する活動を通して、第Ⅲ次の意見文作成につなげる。

(第Ⅲ次)

- ・ プラスチックごみの問題についての意見文作成にあたっては、ステップチャートを活用し、考えや理由、具体例の関係を整理しながら、相手を納得させる文章構成を考えられるようにする。
- ・ 意見文の交流を行い、友だちと自分の意見やその根拠を比較することで、考えを広げられるようにする。
- ・ 単元全体をふり返し、初発の感想と意見文を比較することで、教材文と資料を関係付けて読んだ経験が意見文の質を高めたことを実感できるようにする。

(単元を通して)

- ・ 毎時間「学習の手引き」を活用し、児童が自ら学習の流れを把握しながら主体的に進められるようにする。手引きを確認する習慣を定着させることで、進んで学習に取り組む児童は次の課題に意欲的に挑戦でき、理解に時間を要する児童も必要に応じて手引きを何度も見返しながら、自分のペースで学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 第Ⅰ次で編成した「国語席」で話し合い活動を行い、習熟度の高い児童のグループでは交流の質を高められるよう支援し、習熟度の低いグループでは話し合い活動に全員参加できるように支援する。
- ・ 並行読書を行い、プラスチックごみの問題に関する知識や理解を自然と蓄積できるようにする。教材文に限らず多様な資料に触れることで、児童がより多面的で広がりのある視点を獲得できるようにする。

8. 単元指導計画(全8時間 本時 第6時)

(第Ⅰ次)

- ① 「言葉の力」を確かめ、単元の学習の見通しをもち、初発の感想を書く。

(第Ⅱ次)

- ② 教材文の構成を理解し、要旨をとらえる。
- ③～⑤ 資料1・2の読み取りと教材文との関係付けを行う。
- ⑥ プラスチックごみの問題の解決方法を考える。(本時)

(第Ⅲ次)

- ⑦ プラスチックごみの問題について意見文を書く。
- ⑧ 意見文を交流し、単元のふり返しを行う。

## 9. 本時の学習(6/8)

### (1) 本時の目標

- プラスチックごみの問題の解決方法について考えることができる。

### (2) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の学習内容を確認める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習をふり返し、本時の学習内容を確認める。</li> </ul>
めあて プラスチックごみの問題の解決方法について考えよう。	
2. 解決方法について自分の考えをまとめる。  解決方法には評価をつけ、その理由を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決方法の視点(減らす・リサイクル・くり返し・開発・回収・広げる)を提示する。</li> <li>・ 解決方法はどの視点にあたるのかを書かせる。</li> <li>・ 解決方法を考えることが難しい児童には、ヒントカードを渡す。</li> <li>・ 「効果の大きさ」「持続性」の視点で評価をつけるように伝える。</li> <li>・ 評価の高いものや低いものを中心に理由を書くように伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ 目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したりしている。【思考力・判断力・表現力】(ノート・発言)</p> </div>
3. 解決方法についてグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートを配付する。</li> <li>・ ワークシートには、友だちの名前と考えを記入させ、自分の考えと違う、共感などのリアクションにチェックをつけ、その理由を書くように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ 文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げている。【思考力・判断力・表現力】(ノート・発言)</p> </div>
4. 解決方法の評価と理由について全体交流をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ解決方法でも理由が違う場合には、ノートに書き足してもよいことを伝える。</li> </ul>
5. 本時の学習をふり返し、次時の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の学習を生かして、意見文を書くことを伝える。</li> </ul>

## 10. 板書計画

「永遠のごみ」プラスチック			
保坂直紀			
めあて プラスチックごみの問題の解決方法について考えよう。			
○解決方法の視点 ・減らす・リサイクル・くり返し・開発・回収・広げる			
解決方法	視点	評価	理由
エコバッグ	減、く	☆☆	くり返し使うことでごみが減るから。
紙ストロー	開、減	☆☆	ストローがすぐに柔らかくなり使いにくいから。
ボランティア	回	☆☆	ごみを正しく回収できるため、リサイクルにつながるから。
アイススプーン	減、開	☆☆☆☆	食べるできるので、ごみが減るから。
ふり返り			

## 11. 成果◎と課題●

- ◎ 教材文と資料 1・資料 2 を関係付けて読む学習を通して、プラスチックごみの問題を複数の視点から捉えようとする児童の姿が見られた。  
教材文と資料の内容の共通点や相違点に気づき、それらをもとに自分の考えを形成しようとするなど、問題を多面的に捉える力が身に付きつつある。
- ◎ 本時の学習を、意見文を書くための準備段階として位置付けたことで、児童は解決方法に対する自分の考えを評価や理由と結び付けて整理することができた。これにより、意見文作成に向けて、根拠を持った考えを形成することができた。
- ◎ 「学習の手引き」を活用することで、学習への意欲が高い児童は学習の見通しをもって主体的に学習することができ、理解に時間を要する児童も手引きを繰り返し活用することで、それぞれのペースで学習を進めることができた。
- ◎ 習熟度別に配置した「国語席」にすることで、机間指導がしやすくなり、児童の様子を把握しながら個に応じた支援を行うことができた。
- 教材文と資料を関係付けて読むことはできても、その情報を取捨選択し、意見文の根拠として効果的に活用することが難しい児童が見られた。得た情報を整理し、根拠として論理的に表現する力については今後も継続的な指導の工夫をする必要がある。
- 「学習の手引き」に沿って評価や理由を書くことはできているものの、理由が表面的な説明にとどまり、考えを深めるには至らなかった。

- 理由を深めるための具体例の示し方や言い換えの方法について、支援をする必要があった。
- グループ活動では、考えや理由を共有することはできたが、意見を比べたり深めたりする話し合いには至らなかった。理由の違いや評価の違いに着目するなど、話し合いのポイントを提示した上で、活動を行うべきだった。
- 本時では意見文の根拠となる考えを形成することはできたものの、その考えを文章としてどのように構成すれば良いかについては十分に扱うことができなかった。今後は、考えの整理と文章構成とを関係付けた指導を行う必要がある。

## 12. 資料

### ・ 学習の手引き

### ・ 話し合い活動で使ったワークシート

**学習の手引き**  
 ★太字部分をノートに書きます。

一、日付を書く。めあてをみんなて音読し、確認する。

九月 日

めあて

プラスチックごみの問題の解決方法について考えよう。

二、プラスチックごみの問題の解決方法・視点をノートに書く。

解決方法	視点	評価	理由
(例) エコバッグ	減く		

三、グループ交流を行い、友だちの考えをメモする。

〈ポイント〉解決方法は同じだけ理由が違う意見や、自分にはない考えを大事にする。

四、全員で交流する。

五、ふり返りを書く。(三文以上)

ふり返り

さん		友だちの意見
<input type="checkbox"/> 共通 <input type="checkbox"/> 違う <input type="checkbox"/> すごい <input type="checkbox"/> 天才！		リアクション
理由・コメント	解決案	理由・コメント



# メンター研修

## ○取り組み内容

教員20人のうち、メンターは7人、メンティーは8人で、教員の75%が10年未満の経験年数である。そのため、メンター研修を充実させることで授業、学級経営力の向上に繋がると考え、以下の4つの取り組みを行った。

### ①月1回のメンター研修

- ・ 授業、学級経営について相談
- ・ シナプソロジー研修
- ・ メンターによる得意教科の授業公開
- ・ 指導案検討
- ・ 授業の討議会

### ②情報発信の場の設定

#### ○グーグルクラスルームの作成

メンター研修の諸連絡を行う。また、日々の取り組みや決めた担当教科の情報を集めて発信する。

#### ○学び隊♪コーナーの設置

研修で得た資料や本を公開し、いつでも誰でも学ぶことができるようにする。

### ③クラスウォッチング～見たい!聞きたい!学び隊♪～

1学期と2学期にそれぞれ2週間、授業を参観することができる期間を設ける。途中参観・退出も可能。メンター・メンティーの教員だけでなく全教員が対象。各教室の扉にオープン・クローズの札を貼ることで、参観の可否を知らせる。

### ④メンター・メンティーによる小授業、もしくは公開授業の提案

低・中・高のチームに分かれて、教材研究を行い、授業の流れを提案する。スクールアドバイザーの先生に来ていただき、相談の機会も設ける。それらの授業の後には、メンター・メンティーで討議会を行う。

## ○成果と課題(◎成果と●課題)

- ◎ 月に1回、研修や授業公開、相談の場など、様々なメンター研修があることで、授業・学級経営に対する学びの場が増えた。
- ◎ 普段の業務では関わることのない教員と関わる機会が増え、教員同士の繋がりが深まった。
- ◎ クラスウォッチングでは、途中参観・退出ができる気軽さがあることで、気兼ねなく授業の参観ができた。
- ◎ 日々の業務に追われ、教材研究の時間を確保することが難しくなる中で、メンター・メンティーでチームを作り、授業を提案することにより、前向きに教材研究に取り組むことができた。
- ◎ 1人ではなく、複数で教材研究を行うことで、様々な視点から教材研究をすることができ、自分の学級を客観的に見つめ直す良い機会になった。
- グーグルクラスルームや学び隊♪コーナーにおいて、日々の業務に追われ、更新頻度が少なくなっている現状がある。
- 気軽に授業参観ができるとはいえ他の学級に行くとなると、自分の学級の自習体制を整えるなどの準備が必要で、空き時間の少ない学年は難しい。
- 小授業、公開授業の提案として集まる機会を作ることはできたが、進行役がいなかったため話合いがスムーズに進みにくいこともあった。授業者以外で進行役を決めて、役割分担をしてから進めるべきだった。

## VII. 研究のまとめ

### 1. 研究の成果

#### ◎表現のハードルを下げる手立てとその成果

本実践では、学習者が安心して自分の考えを表現できる学習環境づくりを重視した。考えの途中段階や多様な表現を認める声かけを行い、個人思考から共有へと段階的に進めることで、発言に対する心理的なハードルを下げた。その結果、誤りを恐れずに考えを表そうとする姿が増え、学習への主体的な参加が促された。

#### ◎ペア・グループ学習を通した聞く力・伝える力の育成

ペア・グループ学習や全員参加型の授業を継続的に取り入れ、すべての学習者に発言や対話の機会を保障した。少人数での話し合いを重ねる中で、相手の意見を丁寧に聞き取る力や、自分の考えを分かりやすく伝えようとする意識が高まった。また、他者の考えを受けて自分の考えを修正・発展させる姿も見られた。

#### ◎対話の積み重ねによる学びの質の向上

対話を一過性の活動に終わらせず、「なぜそう考えたのか」「別の見方はないか」と問い返す場面を意図的に設定した。これにより、学習者は考えをつなぎ、問い直しながら思考を深めるようになった。その結果、対話の質が高まり、理由や根拠を伴ったより深い理解へとつながった。

### 2. 今後の課題と取り組み

#### ●対話の深まり

本実践を通して対話の活性化は見られたものの、発言が感想的・表層的なやり取りにとどまる場面もあった。今後は、「なぜそう考えたのか」「どの資料や経験を根拠としているのか」を明確にする問いかけを工夫し、理由付けや根拠を基にした対話へと高めていく必要がある。そのためには、発言の型や言語表現を示すなど、対話を支える具体的な支援が求められる。

#### ●振り返りの質の向上

振り返り活動では、学習内容の整理にとどまる記述が多く見られた。今後は、「何が分かるようになったのか」「考え方がどのように変化したのか」といった視点を示し、学びの変容まで意識して振り返ることができるよう支援していく必要がある。記述例の提示や振り返りの観点の明確化を通して、質の高い振り返りを促していきたい。

#### ●学年段階をつなぐ系統性

深い学びを実現するためには、単元や学年ごとの取り組みにとどまらず、学年段階を見通した指導の系統化が重要である。各学年で育成したい対話力や思考力を整理し、段階的に高めていく指導計画を構築することで、学びの連続性を確保していく必要がある。今後は、学年を越えた共通理解を図り、組織的に指導を進めていくことが課題である。

【研究にたずさわった教職員】

杉本 善幸	兼川 吉太郎	阿部 梨沙	石原 麻有	大本 候希
神谷 清香	小島 沙采	坂上 晴香	七野 香織	高山 桃音
田中 海斗	綱永 陽介	中原 秀彰	西田 好伽	長谷 拓朗
林 公美	福本 桃子	細川 翔平	丸山 はるか	宮崎 優紀
山下 泰子	山口 奈緒美	文 栄一	吉田 紀江	吉本 篤史
高月 恵子	宮内 正樹	宮原 美佐子	宇都 秀子	三宅 沙菜恵
工藤 眞弓	佐古 シノブ	田中 範子	藤井 美弥	若狭 真衣
境野 純	南 直子	深井 清	津曲 純	Tiara Washington